

マツダ新報

目次

第十四卷

第七號

本邦に於ける従量燈料金制の研究	2—14
産業の合理化と國產品の海外進出	15—17
金澤市電氣局陳列所に於ける照明陳列實驗	18—20
九州マツダ助成會創立總會の記	21—25
趣味の科學（七）	26—27
南國の海（紀行）	28—34
雷化劇『スキツチ』	35—36
映畫劇『光を望みて』	37—47
編輯後記に代へて	48

本邦に於ける従量燈料金制の研究

阪神急行電鐵株式會社
電燈電力課 營業係長

宮 崎 壽 郎

緒 言

一、従量制基本料金の二大別

- (a) 最低使用料金制
- (b) 供給準備料金制

二、現行料金制の算出様式

- (a) 直線従量制
- (b) 階段従量制
- (c) 區劃従量制
- (d) 容量従量制
- (e) ライト式従量制
- (f) ライト式容量従量制

三、供給上の諸條件と其利害得失

- (a) 屋内配線の負擔方法
- (b) 電球費の負擔方法
- (c) 積算電力計の負擔方法
- (d) 契約容量の決定方法
- (e) 燈數と供給方法

四、小口電熱供給の方策

五、新料金制の勃興と其主張

結 論

緒 言

電氣供給事業に於て最も重要なものは料金問題である、然るに由來電氣事業は技術的方面に於て見るべきものあれ共、經營の方面に於ける進歩は之に伴はず、成行主義で今日に及んだ感がある、就中料金問題の如き追隨的、協調的に制定せられたもので、其需要狀態並に其負荷狀態等を考慮して分類制定せられたものが少ない。而して我國に於ける重なる會社の電力、電熱の供給は殆んど従量制に依るものが多い、獨り電燈のみは未だ定額制大多數を占むるのであるが、供給者は時勢の進展に鑑み適切妥當なる料金制の確立に努力し、一面小型家庭電熱器具の發達に伴ひ、従量供給に依るの需給兩者の利便多きを自覺し、今や如何なる方法に依つて需要家の便利を主とし、供給者の收入を減せずして、廣く従量燈の供給を行はんとするかは、電氣供給者の一様に研究焦慮しつゝある重要な問題となつた。

以下我が國に於て現在行はるゝ從量燈の料金制を實例によりて、比較研究し、現下の問題解決に幾分にも寄與せんとするものである。

一、從量制基本料金の二大別

電氣供給事業は他の事業に比し多額の固定資金（發、變電所、送、配電線路其他の投下資金）を要す、而して固定資金に對する利子、並に償却が電氣料金の有力なる要素である、従つて單に消費キロワット時に比例する料金では、不公平を生ずる結果となるにより、供給準備料或は最低料金の名義に依りて、基本料金を附加する所以である。

(a) 最低使用料金制

需要者が自己の都合上少しも電氣を使用せざるか、又は其設備容量の割に極めて少量しか使用しない様な時でも、何時でも電力を使用し得る様、設備したるために要せる投下資金の利息と、其設備に對する償却又は電線路及變壓器内の電力損失等は、尠く其需要者に於て負擔を求めねばならぬ。従つて一ヶ月一定の使用電力量に對して料金の支拂を需要者に保證せしめるのである、之れを電力量で表はせる場合、最低使用電力量と呼び、之を料金で表はせる時最低使用料金と云つて、設備容量に依つて徴收するのである。

(b) 供給準備料金制

設備費に對する利息其他の費用を電力費に振り掛けずに、電力料と別途に設備容量に應じて支拂はしむるものがある、之れを供給準備料又は配給料と云つてゐる。此二者の優劣はその供給者の採用せる料金制の如何により相違するものであつて、一概に論ずることは

出来ないが、需要者の側からいへば供給準備料より最低料金の方が理解され易く、供給準備料は兎角需要者の誤解を招き疑義を生じ、恰かも供給者が不當の利益を食りつゝある如く思はれるのが常である。然るに最低料金制度は需要家が實際必要なく共、最低料金までは電氣を浪費する傾向があつて國家的に不經濟である、之れに反し供給準備料制は最低料金制に比し、電力料が割安に決定せらるべきであるから、多量に使用するものや極少量の使用者に對し利便なれど、料金制に對する公衆の理解が發達するに至らば必らずや將來に於ては、供給準備料金制が多く採用せらるゝものと、思考せらるゝのである。

二、現行料金制の算出様式

我國現行の從量燈料金の算出様式は大體左の七種に區分することが出来る、次に各個に實例を以て、漸次比較論究せんとするのである。

(a) 直線從量制

需要者の最大設備容量や、消費電力量の多少に不拘料金率を一律にして料金計算をなすものである。

一〇キロワット時消費しても、一〇〇キロワット時消費しても、其料金率の一定なるものを云ふ、従つて最低使用料又は供給準備料を附加し、以て過大にして無用の受電設備をなすことを牽制し、資金の濫用を防止するのである。

(一) 最低料金を附加するもの

新潟水力電氣株式會社は其一例にして、一ヶ月一燈當り、最低使用量一、五キロワット時とし、其料率を一キロワット時に

付金拾六錢とす。

同一方式による供給者は相當に多數ありて、最低使用量は一燈に付一キロワット時、一、二キロワット時或は一、五キロワット時等がある。

(二)供給準備料金を附加するもの

金澤市電氣局

供給準備料 一箇月一アムペアに付 金貳拾錢

電力料金 一キロワット時に付 金拾參錢

右はアムペア單位によるものなれ共、宇治川電氣近江支店の如く燈數單位のものもある。

供給準備料 一燈一箇月に付 金貳拾錢

電力料金 一キロワット時に付 金拾五錢

前述の如く最低料金或は供給準備料に依る直線從量制は、單一料金を以て計算するものなれば、需給兩者間の採算上頗る簡易で此點理想的なれども、需要容量大なるもの若くは使用電力量の大なるものに對して、何等の特典がないから、是等の需要家から苛酷であるとの譏は免れない、最低料金の場合にして、一ヶ月一燈當り金貳拾五錢と金額で定め、一キロワット時電力料金を金拾八錢と定むるものあり、又電力料金に於ては一キロワット時金參拾錢を最高とし、貳拾八錢、貳拾五錢、貳拾錢、拾六錢等があり、供給準備料の場合之れをアムペア制に依るものと、燈數制によるものとがある、之れが是非は俄に論斷し得ざるものなれ共、大體に於てアムペア制は燈數制よりも合理的であると思はるゝが、實際

問題としては幾多の困難が伴ふものである、安全にして低廉なる電流制限器の出現するに至らば、總てアムペア制に推移し行くべきは想像するに難くない、従つてアムペア制は取附電燈の實際燭光數によるか、又は單に需要家申込のみにより其契約アムペアを定むるかの何れかであるが、取附電燈の燭光數による時、アムペア制は燈數制の供給準備料より割高となる場合多く、單に申込による取扱は最小限度の申込となりて實際に符合しない、現在電流制限器を以てその契約容量を決定する供給者は、兎角契約容量を極少にする關係上、よく働作し需要家の感情上面白くないとの意見のあることは注意すべきことである。尙石岡電氣は最低料金の一ヶ月一燈一キロワット時參拾錢を徵收する外、計器損料及供給準備料の名義により、毎月一燈當り金拾五錢宛を徵收し、筑後電氣は前記の最低料金を徵收する外、更に毎月一燈當り金拾五錢の供給準備料を徵收してゐる、是等は最低料金制と供給準備料制とを併用せる特別例であるが、需要家に對し二重の保證を爲さしむる如きは餘りに苛酷であり、尙料金制を徒らに複雑ならしむるの譏を免るゝことは出来ない。

(b)階段從量制

容量の大きさを問はずに使用電力量のみを一定の階段に分ち、各階段毎に料金を遞減して行くものである。

(二)最低料金を附加するもの

仙臺市電氣部

一箇月一燈當りの最低使用量 一キロワット時

一箇月消費電力量	一キロワット時料金
一〇〇キロワット時以内	金 拾 五 錢
五〇〇	金 拾 四 錢
一、〇〇〇	金 拾 參 錢
(一、〇〇〇キロワット時以上省略)	

(二)單に實際消費電力量により供給するものに青森電燈がある。
電力料金

一箇月消費電力量	一キロワット時料金
一〇〇キロワット時未満	金 拾 八 錢
一〇〇	金 拾 七 錢
二〇〇	金 拾 六 錢

但し同社は従量燈は一箇年以上使用するを要し、一箇月消費電力量過少なる時は、従量供給を謝絶することあるべしと附言してゐる。

本料金制による時其決定方法の如何により、需要容量小にして使用量尠き需要者は殆んど其適用を受けることなく、現に仙臺市電氣部の前記料金の如きは、普通従量燈需要者は第二階段の一キロワット時金拾四錢の適用を受け得ない憾がある、而して使用量の大小は負荷率が良いか、或は設備容量の大小に依る場合があるから、是等の區別の有無に依り需要家に損得不公平の結果を生ずることとなる。

青森電燈の階段式従量制は、供給準備料も最低料金も採用せざるため、極く少量の使用の場合には會社は損失を蒙ることとなる、

同社が使用電力量の過少を懸念し、其供給規程に『従量燈は一箇月の御使い高格別不足と認むる時はお斷りすることもあります』とあるが斯る曖昧なる方法に依るより、寧ろ最低使用量を決定すべきである。

(c)區劃従量制

階段従量制の如く區劃前後の料金率に於て、著しき相違を來たす不公平を除去するため生れた料金制で、數區に分れたる使用量の最下の部分より、漸次所定の料金率を低下し之れを加算するものである。

福島電燈

一箇月一燈當り最低使用量 一、五キロワット時

一箇月總使用電力量

二五キロワット時迄一キロワット時 金 拾 八 錢

同 以上超過分五〇キロワット時迄 金 拾 七 錢

一キロワット時に付 金 拾 七 錢

之れは階段従量制に比し寧ろ公正である。

只其區劃が一般普通需要家に適合する様制定せらるべきで、プロツクの切り方の大きいのは却つて、其効用率を薄くする、無論料金の點も考慮に入れるべきであるが、前記福島電燈の如きは實際使用量と最低量の點より見て妥當である。

(d)容量従量制

需要家の設備容量の増大に従ひ料率を低減する直線従量制である。

元來容量が倍加しても供給者の投資金及諸経費は倍加しない、即

ち容量大なれば大なる程單位當りの總費用は減少するから、五燈の需要家の料金率より百燈のそれが安くなるのが妥當である、然し負荷率の影響更に大なるものあるは勿論であるから、嚴格に謂へば此料金制は不合理な結果を來す場合があるとも謂ひ得る。

大阪市電氣局

供給準備料

一ヶ月一アムペアに付

金 五 拾 錢

同 三アムペア以上一アムペアに付

金 貳 拾 錢

電力料金

二五アムペア未満一キロワット時に付

金 九 錢 六 厘

同 以上 同

金 八 錢 七 厘

五〇アムペア同 同

金 七 錢 七 厘

七五アムペア同 同

金 六 錢 七 厘

(七五アムペア以上省略)

一アムペア當り一ヶ月平均使用電力量一〇キロワット時以上なる時は其超過量に對し前項單價より金壹錢を減額す。

本料金制に依る前記大阪市電氣局の料金制は、需要容量若くは負荷率等を考慮し、アムペア制を採用し居れるにより先づ理想的である。

(e) ライト式従量制

之れは容量従量制と異なり設備容量の大小に關係なく、負荷率のみによりて料金を調節する様定めたものである、負荷率の算定法は一ヶ月に其設備容量一杯で使用了ものとしての時間數、或は設備したる單位當りの使用キロワット時によりて料率を定めてゐる。

山形電氣

一燈一箇月最低料金

金 貳 拾 錢

一燈一箇月平均消費電力量

二キロワット時以下一キロワット時に付

金 拾 八 錢

同 超過分 同

金 拾 六 錢

三キロワット時超過分 同

金 拾 四 錢

四キロワット 同

金 拾 貳 錢

ライト式の變形として河津川水力の如きは、一キロワット時金拾八錢と定め、最低料金として一燈一ヶ月一、五キロワット時とし、一燈一箇月平均使用量が三キロワット時以上なる時は一割引、同四キロワット時なる時は一割五分引、以上順次に割引率を上昇せしめ、最高十キロワット時迄を定め三割五分迄の割引制を採つてゐる。

本料金制は需給兩者に於て料金採算上頗る煩雜である。

(f) ライト式容量従量制

ライト式従量制と容量従量制との折衷供給方法である。

(一) 最低料金を附加するもの

東邦電力名古屋支店

五燈以上の時

一燈一ヶ月最低料金

金 貳 拾 八 錢

一〇燈以上の時 同

同

金 貳 拾 六 錢

一五燈以上の時 同

同

金 貳 拾 四 錢

二〇燈以上の時 同

同

金 貳 拾 參 錢

二五燈以上の時 同

同

金 貳 拾 貳 錢

(二五燈以上省略)

一箇月一燈當り平均消費電力量 一、五キロワット時以上の時は其超過量に對し

三キロワット時迄	一キロワット時	金 拾 四 錢
同	以上五キロワット時迄	金 拾 壹 錢
同	以上八キロワット時迄	金 八 錢

又伊那電氣の如きは電力料金にも容量制を適用してゐる一例である。

五燈以上一箇月一燈に付最低料金

一、五キロワット時	金 參 拾 錢	
一〇燈以上同	一、キロワット時	金 貳 拾 錢

其超過量は

五燈以上の時

一、五キロワット時超過分二キロワット時迄

一キロワット時	金 拾 五 錢
---------	---------

二キロワット時以上超過分	同	金 拾 貳 錢
--------------	---	---------

一〇燈以上の時

一キロワット時超過分二キロワット時迄

同	金 拾 五 錢
---	---------

二キロワット時以上超過分	同	金 拾 貳 錢
--------------	---	---------

本料金制は需給兩者間の計算を複雑ならしむる嫌はあるが合理的である。

三、供給上の諸條件と其利害得失

従量燈供給上の諸條件には屋内線及電球の負擔區分若くは、積算電力計の賃貸料の有無等があり、何れも需要家の負擔に屬するもの

にして、従量燈の普及に影響するところ大なり。

今各社の狀態を引例して、之れが利害得失を見るに

(a) 屋内配線の負擔方法

従量燈の屋内線負擔方法の現在行はれつゝある方法は、貸付制と買取制の併用が大多數を占めてゐるのであるが、中には買取制に限るもの、若くは無料貸付をなすなどがある。

(イ) 買取制

買取制は供給者が屋内線を施工し、之れを需要家に夫々賣却するか、若くは需要家が電氣商會に工事を任意施工せしむる、純然たる需要家負擔のものである、京阪電氣は其一例である。

(ロ) 買取制と貸付制の併用

前記の買取制を採用し傍ら一箇月一燈當りの屋内線貸付料（賃貸料）を徴收しつゝあるものにして、之れは全國大多數の供給者の採用しつゝあるものである、而して一箇月一燈に付貸付料の最高は金拾五錢にして、拾錢、八錢、六錢、五錢の順位になつてゐる。

(ハ) 會社負擔無料貸付

全然會社に於て工事を施行し、之れを無料貸付とし従量供給をするものがある。

大阪電軌は假りに需要家に於て屋内線の負擔をせられたるもの、所謂買取の需要家に對しては其電力料を五分引としてゐる。

屋内線の賃貸料は燈數の如何に拘はらず、一燈一箇月に付幾何とするも仙臺市電氣部は其點燈燭光數により、屋内線の貸付料を相違せしめ、高燭光程貸付料を高く取つてゐる、又東京市電に於ては燭光と個數により貸付料を定めてゐる、例へば百燭光以下二百個迄金

五錢とし、それ以上を其超過分丈漸次遞減する方法を採り、燭光の増加せる時高く取る方法である。

元來従量燈は料金の公正なる點、若くは電氣の經濟的使用等の既述の見地より、供給者自體之れが促進に努むべきものであるから、供給者の經濟的範圍の許す限り従量使用を簡易にすべきもので、全然買取にあらざれば供給せざるが如きは、餘りに其利用の範圍を極限し需要家の利便を顧みざると共に、従量燈の發達を阻止するものと云ふべきである。

更に供給者に於て屋内線を施行し、無料貸付をなすは最も需要家の便法にして、従量燈供給の發達を促進するものと料せらるゝものなるも、供給者側の料金制の如何によりては、需要家の取附電燈數の濫設となり、供給者自ら無益の固定資金を増大せしめ、従つてそれ丈電氣料金を高からしむる結果を招來することゝなる、矢張前記の多數供給者の採用實施し居れる貸付制と買取制の併用が、最も當を得たるものであり、需給兩者の利便を阻害せず一面従量燈の發達を期し得るものと信ぜらる。

(b) 電球費の負擔方法

(イ) 電球は總て需要家に負擔せしむるは、殆んど大多數の供給者が採用せるところである。

(ロ) 貸付料を採用しつゝ、斷芯、光力減退の時に、取替料一個に付金拾錢を徴收するものに新潟水力電氣がある。

(ハ) 電球は需要家持を原則とし、貸付希望者には毎月之れが貸付料として、三十二燭光迄一個一ヶ月に付金五錢、五十燭光以上一個一ヶ月金拾錢など規定せる仙臺市電氣部がある。

(ニ) 取附の際無料を以て供給者之れを取附け、爾後(イ)の方法によるものに東京電燈青梅出張所、九州水力がある。

(ホ) 電球損料として毎月一個に付金五錢を徴し、斷芯、光力減退を負擔せる山形電氣がある。

供給者に於て電球を貸付け或は最初取附の際電球を負擔することは、其供給容量を確定する點に於て有利なるべしとするも、徒らに高燭光の使用を阻止し需要家の利便を減殺することゝなる。

従量燈は瞬間使用に於て契約容量を超過せざれば、電球は需要家に自由に使用せしむるも、供給者は何等之れによつて失ふところなく、寧ろ利益を増進するものなるが故に、電球の負擔は全然需要家に持たしめ、自由に所要電球を利用せしむる方、需給兩者間の利便が多いのである。

(c) 積算電力計の負擔方法

(イ) 有料貸付制

全國大多數の供給者の實施せるものにして、五アムペア又は一〇アムペア以下何程と決定せるもの及各計器毎に決定せるもの等あり、普通三アムペア、五アムペアを每一ヶ月に付四、五拾錢と定めてゐる、唯稍之れが趣を異にせるものに計器損料を燈數により決定せるもの、例へば一燈一ヶ月金拾錢とせるものに河津川水力、又一〇燈迄七拾錢、以上一〇燈増毎に金拾錢増と定むるものに新潟水力電氣、或は一〇燈用一ヶ月八拾六錢二〇燈用同壹圓などと決めてゐる函館水電がある、更に東京電燈沼津支店の如く需要家持を認容する傍ら、供給者より貸付けたる時は容量の如何を不問、計器壹個に付一ヶ月金七拾錢と決定せるものがある。

(ロ) 無料貸付制

供給者の負擔を以て取付け、之れが貸賃料を徴收せざるもので阪神電鐵は其一例である。

(ハ) 需要家持

全然需要家品を取付けてゐるもので筑後電氣其他がある。

計量器は供給者の計器によるか、需要家持とするか、一部需要家持を認むるか云ふに、若し需要家持の場合は供給者に於て計器不良と認むるも、容易に之れが取替を行ふことが困難なるのみならず、秤量器は供給者の所持物たる一般商取引の觀念に反する處である。

由來計器は相當價格の高いものであつたから、之れに對し特に其損料の制定を見たるも、今日の如く其價格低下し、尙供給準備料に依る場合の如き、全然供給者の負擔とし無料貸付とするを妥當なりと信ずる。

(d) 契約容量の決定方法

電流制限器を取付け、其契約容量を決定せる供給者は論外とし、未だ比較的高き電流制限器採用を躊躇し居れる大多數の供給者の契約容量決定は、單に計器の容量による外がないことゝなつてゐる、然るに計器は短時間の過負荷には容易に耐へ得るが故に、實際容量と契約容量との間に差異を生じ、料金制の如何によりては甚しき不公平を生ずる場合がある。

一燈當りの最低料金制を採用する供給者は、一燈當りの或程度の容量の限度を定め、以上超過のものは二燈と見做すと決定し置けば、甚數矛盾と不公平は生じないが、例へば普通アムペア制燈數制等による供給準備料を徴收せる供給者は、供給設備の關係上夫々一燈當

りの容量を二〇ワット乃至五〇ワットと決定し居れる状態である。假りに二〇ワットを一燈と見做し、それ以上は二〇ワット毎に一燈と見做すものと定めたる場合、需要家は決してそれを遵守する筈なく、且つ之れが嚴守を望むは實際上不可能の問題なれば、申込の巧拙は忽ち需要家の損得を招來し不公平と矛盾が起る、然れ共從量燈需要家は其取附電燈の全部を點燈すること至つて稀にして、各個に其濫費を防止し、極度に使用電力量の節約を期するは明白なる事實にして、其負荷率若くは不等率に於て相當見るべきものあり、一燈當り二〇乃至五〇ワット程度に於て需要密度の如何により、其使用を認容するときは、需要家の利便大にして尙又供給者の忍び得ざる犠牲にもあらざるべく、從つて將來電流制一器により契約容量を決定するが如きことなく、一燈當り何ワットと換算するか、進んでは需要家の種類により供給者の推定によつて、供給するに至るべきである。

(e) 燈數と供給方法

現在我國に於ける電氣供給業者の從量燈供給上の諸條件の内で、最も重要なものゝ一つとして、燈數の點に於て限定的なるもの、任意的なるもの、若くは強制的なるものの三種がある。

(イ) 限定的供給

或一定の取附燈數以上にあらざれば、從量供給を認めざる方針にして、地方の電氣供給者中の最大多數を占むるものである、而して其燈數を限定する程度は

五燈以上とするもの	新潟水力電氣其他
六燈以上 同	尾鷲電氣
七燈以上 同	山形電氣

八燈以上 同

東京電燈青梅出張所其他

一〇燈以上同

出雲電氣其他

一五燈以上同

盛岡電氣其他

一 等にして夫々各供給者に依つて異つてゐる、然れ共之れを五燈以上のもの、一〇燈以上とするものとの兩者に區分し得らるる。

(ロ) 任意的供給

従量燈供給上取附燈數の多寡を論ぜず、需要家の希望により自由に供給するものにして、大阪市電氣局其他の都市に於ける供給者が實施せるものである。

(ハ) 強制的供給

或一定の取附燈數以上のものは悉く従量供給によるものにして、例へば東京電燈の三燈以上、神戸市電の五燈以上、岡山電燈の六燈以上、若くは嘉穂電燈の一〇燈以上等とせるものがそれである。

是等の區別は對外的には供給者の有する供給區域の市街地か、若くは僻陋地かが依つて決する問題である、換言すれば其供給區域の文化發達の程度によつて決せらる。對内的には供給者の經濟的關係若くは經營者自體の自治團體であるか、營利會社であるか又之れを決する有力なる要素であると思ふ。

然れ共一五燈以上にあらざれば、従量供給を謝絶する盛岡電氣其他の如き、或は従量燈供給を全然せざる石見電氣の如きは、假令従量燈供給が收入上不安定であり、之れを確保し得ざるものにして、幾分の一時的減收を招來するものとは謂へ、餘りに需要家を拘束するものにして、現下の電氣供給の趨勢を顧みざるものなりとの譏を免れざるものと謂ひ得る。

従量燈需要家は七、八燈より十一、二燈が大多數を占むることは各供給者間に於て既に定説のあるところである、従つて其最も必要とする是等需要家を度外する此制度は理想的とは斷じ難い。

五燈乃至一〇燈などと燈數を制限するは、矢張従量燈供給の簇出を防止する警戒線と解釋し得らるる、然れ共由來定額は終夜點燈するものとしての料金が制定せらるるを原則とするものに付、従量供給によつて終夜點燈する時、是れが定額より遙かに高價に昇るものである、従つて取附燈數の尠なき需要家は取附燈數の大なる需要者より各一燈當りの使用程度甚數かるべく、自然一燈當りの消費電力量も比較的多量なるのみならず、計器損料其他の關係より見て、従量より定額の方有利となり、従量化すべきものにあらず、故に是等のものに對して燈數の制限を附するは無意味のものなりと推論し得らるるを以て、従量供給には其燈數の制限を附するは供給者の杞憂に過ぎず、又需要者の不便とするところなれば、燈數の制限は撤廢すべきものであると信ずる、只青森電燈の如きは實際使用量のみによつて供給し居れる關係上、燈數制限を撤廢せば收入減を免れないが、之等は料率に於て加減すればよいのである。

強制的供給は現下の狀勢では、供給者が大都市を供給區域とし自治團體なる時、大體に於て成功し稍之れが實現を期し得べきも、營利會社に於ける此制度は幾多の障礙を生ずる、假令公營によるものとするも取附燈數の最小にして、然かも使用量の比較的少量なる需要家は、依然定額の方を得策として従量變更を肯ぜざるべく、之をしも絶體に強制するは困難である、況して營利會社に於ては之れを強要するは尙更に困難である、然れ共供給者は將來従量供給を促進し、需

給兩者の利便を増進し、國家的見地より電力の浪費防止を實現するためには、此方針に向つて邁進すべきものと信ずる、従つて料率の大なる値下を行ふ時、若くは従量供給制を改正し、需要家の負擔の軽減する時等、機會にあらば従量化の増加を期せねばならぬ、然し強制的供給を實施する時、従量制に變更するを厭ふの餘り、強いて燈數を減少する需要家あることも見通し得ざる事實である。

現下の如き電燈を室内裝飾用として使用せられ、一方小型電氣器具が自由に使用せらるゝ時勢にありては、文化程度の高き都市は三燈乃至五燈以上を強制的に従量供給をなし、其他にありては燈數に制限なく、何燈にても従量供給を開始することが急務である。

四、小口電熱供給の方策

近年家庭用電氣器具、即ち電氣扇、火鬚斗、湯沸器、電氣火鉢其他諸種の放熱用電熱器具、若くは揚水ポンプ其他の工業用小電動機の如き、家庭用小容量電氣器具を、従量燈より如何にして使用せしむるかは、最近齊しく供給者間に起れる研究題目であつて、既に左記の供給方法を以て、兎に角それらの需要に應じつゝある。

(a) 山形電氣 五〇〇ワット迄

従量燈配線を以て同一計器により供給、一〇〇ワット毎に一燈と見做し、燈數に加算最低料金を徴收す、

(b) 峽西電力 供給者の承認せるものに限り、

「ソケット」より使用せしめ一〇〇ワット迄を一燈と見做し、燈數に加算最低料金を徴收。

(c) 石動電氣 五〇〇ワット迄

計器容量の範圍内で使用せしむ。

(d) 伊那電氣 七〇〇ワット迄

最低料金の責任を負担せしめず、二〇〇ワット迄はソケットより以上七〇〇ワット迄は特別配線にて同一計器により供給

(e) 京都電燈 五〇〇ワット迄

電燈供給規程による以上と雖も、屋内配線の都合により、電燈拔を希望せらるゝ向には右に依る。

(f) 神戸市電 三〇〇ワット迄

容量一〇〇ワット迄毎に一ヶ月貳拾五錢を、アムペア制の供給準備料に加算徴收す。

(g) 東京電燈

三〇〇ワット迄電燈用ソケットより使用せしむ

以上一、〇〇〇ワット迄特別配線を施行使用せしむ。

(h) 阪神電氣 五〇〇ワット迄

従量燈配線に接続、電燈供給規程により供給。

(i) 阪急電氣 三〇〇ワット迄

供給準備料を徴收せず、契約容量内で使用せしむ。

南海電鐵の如きは三キロワット以上申込の電熱需要家には、其五分の一丈の電燈容量（一燈を二〇ワットと見做す）に限り之れが併用を認め、其電燈容量を電熱契約容量に加算し、之れを電熱供給規程により供給し居れるが如き、逆の方法により綜合制を採用しつゝある處もある、然し之れは電燈需要容量大なる需要家が料率の軽減を期する目的を以て、強ひて三キロワット契約の電熱申込をなし、供給者の趣旨を逆用せらるゝ結果となり、餘り面白くないと謂はれてゐる。

現今供給者の大多數は未だ従量燈より、小容量電氣器具の併用を認めて居ない状態であるが、是等はどうしても適當なる方法によつて、其使用を認むる様にせねばならぬ。差當り電氣アイロン一個を使用せんとするも、忽ち電熱の申込をせねばならぬ様では、餘りに近代生活に縁遠い供給者であり、時代の進運に順應せない供給方法にして、需要者は無斷使用の餘儀なきに至るであらう。又如斯小容量のものを極めて短時間使用するものに對して、一々最低料金若くは供給準備料を附加し、使用者の負擔を増大するは考慮せねばならぬことだと思ふ。

需要者は普通動力、電熱料金よりも遙かに高率なる電燈料金を以て、是等を使用するものなるが故に、假りに長時間使用するも供給者としては、斷じて損耗を生ずるものでなく、需要者は決して浪費する譯はない筈である、更らに三〇〇ワット以下の小容量電氣器具使用を認むる供給者は、相當大なる不等率を生ずる關係上、特に之れがために供給設備の増大とか、資金の増加を懸念するに及ばない、出来る丈電燈契約容量内で自由に之れが使用を認容し、多少たり共消費電力量の増加を計るは、却つて供給者自身の收益を増すものと思ふ、而して僅かなる取附電燈數に對し最低料金、又は供給準備料を附加しながら、三〇〇ワット以下の家庭用電氣器具に、何故に之れを課せざるやの論者もあらんも、供給者は特に之れが爲めに供給設備の變更を要せざるものなるを以て、電燈契約容量内で之等を使用せしめて可なりとするものである。

五、新料金制の勃興と其主張

最近小型電氣器具の發達により、之れを住宅用電燈と併用せしむ

べしとして、新料金制が出現し、燈用、力用、熱用、總て同一の料金を以てせんとするものに綜合料金制、三種料金制、混合料金制がある。

之れは是等小型電氣器具の普及發達を容易ならしめ、計器其他配線に於ても重復設備を要せず、且つは消費電力量を増大すると云ふ需給上最も經濟的合理的料金制として、都市に於ける供給者間に注目せらるゝ處のものである。

(a) 綜合料金制

此制度の需要者に對する利點は

(イ) 各種用途の電氣に對し自由に使用し得らるゝこと、
(ロ) 契約容量範圍内で交互に諸設備を巧妙に使用することによりて、需要率と負荷率とを良好ならしむ、従つて比較的料金を低廉ならしむること、

次に供給者の利點とするとところは

(イ) 同一配線で一個の計器により供給する結果、固定資金の節減を見ること、

(ロ) 各別料金制の場合よりも檢針、料金算定其他營業上技術上取扱は簡便となること、

(ハ) 電氣の不正使用を輕減すること、

等である、然るに今之れに對する反對説を擧ぐれば

(イ) 綜合制單一制によつて供給せんか、電燈料金の低廉は歡迎せらるゝも、有力なる競争品のある電力、電熱は其負擔に堪へ難く、従つて競争品により電力、電熱の利用は減少する、若し需要家の満足なる料金を以てせんか、生産費以下の料金を以てせねばならぬ。

(ロ)電燈、電力、電熱は其使用時間各々異なり、従つて負荷率も異なるが故に、使用價值は勿論原價説よりするも不合理である。

等にして、綜合料金制度は電力費が他の生活品の價格に比して、沒却し得る程度になりたる場合、又は電力費が他の競争品(瓦斯石炭)よりも低廉となれる場合に於て、初めて實現し得る制度にして、現時の如き高價なる電力生産費を要する時代に於ては、實行不可能と謂はれて居る。

(b)三種料金制

現行の屋内配線が複雑で不便であるから、綜合制の如き單一便利なる制度に依らんとするもので、屋内配線を簡單にし、電熱の發達を阻害せず、經營上の支障を來さず、且つ原價を基礎として公正なる料金制度として、三種料金制が最近に於て主張せらるゝに至つた。

此料金制は晝間負荷、尖頭負荷時に於ける負荷、深夜間負荷、の三種に區別し、之れを一個の三種料金計器にて計量するのである。

電力使用の目的を論ぜず、即ち電燈、電力、電熱の種別なく、其使用時間に依つて料率を異にするもので、一個の三種料金計器(トリプルタリフメーター)にて計量し、電燈の如きは主に尖頭負荷時に於て使用せらるゝから、自然尖頭負荷時の高率なる目盛りに、主として晝間に使用せらるゝ電力並に電熱は晝間負荷として晝間料率による目盛りに、深夜間に使用するものは深夜負荷として最低料率の目盛りに指示し、夫々當該料率によつて申受くるものである、而して斯くするときは需要家は自己の勘定から、努めて尖頭負荷時に使用す

ることを避け、晝間或は深夜に電氣を使用するやうになり、自然に負荷率を平衡ならしむるから、小電力を以て多數の需要に應ずることとなる、水力電氣を主とする國に於ては、此方法は國家的の利益を増進すると云ふのである、其一例を示せば左の如くである。

晝間		夜間		深夜間	
自四月一日	自午前七時	自四月一日	自午後七時	自四月一日	自午後七時
至九月三十日	至午後七時	至九月三十日	至午後二時	自九月三十日	自午後四時
至十月一日	自午前九時	自十月一日	自午後四時	至三月卅一日	自午後九時
至三月卅一日	至午後四時	至三月卅一日	自午後四時	至三月卅一日	自午後九時
一キロワット時に付 金參錢貳厘		同 金貳拾錢		同 金壹錢六厘	

(c)混合料金制

ドハーチー氏の三部制(需要料金と電力料金を申受くる二部制料金制の外に、需要家料金と稱する第三の要素を料金中に加へたるもの)を骨子とし、之れに負荷率力率及效用價值を加味し、大體左の三種に區別し、綜合徴收せんとするものである。

(イ)供給準備料、之れは販賣電氣量の多少に拘はらず、必要な費用を供給契約容量(K、V、A)に應じて、需要者に負擔せしめんとするものであつて、電氣の用途によつて單價を區別するのである。單價の區別は使用目的による負荷率と、電氣の效用價值とを斟酌して決定するものとする。

(ロ)供給手数料、之れは検査、檢針、調定、集金等の費用は使用電

氣量の多少に拘はらず、需要家數及屋内工作物の大小（電燈、電熱器、電動機等の容量及個數）によつて増減するものである。

（ハ）電氣料、之れは使用電氣量の多少に應じて徴收するものであつて、前二項以外の費用を、之れによつて需要者に負擔せしむるのである。

此料金制は綜合制と用途別の料金制との利點を具備し、且つ兩者の缺點を完全に取除かんとするものである。前記三料金制の是非に對しては種々論議せられ、現在尙研究時代に屬し實施上考慮すべき問題とされてゐる。

結 論

電氣の供給は其需要狀態、負荷狀態を考慮せる従量制度により料金率を算定し、更らに其需要目的等により、妥當公平に分類するは需給兩者の利益を擁護し、合理的なるものでなければならぬ、然し如何に合理的にして理想的なりと認めらるゝも、供給者に於て幾分の犠牲を拂ふの要があるから、忽ち之れを實施することは困難なる事情がある、従つて各供給者は差當り經營上支障なき限り、供給料金制の合理化に努むる一面、夜間供給料金を以て晝夜供給を開始し、屋内線の貸付制と買取制の併用を採用し、計器損料を無料に接近せしめ、燈數を制限せず可及的に現行定額を従量化するに努め、小型電氣器具を自由に使用せしめ、將來五燈より三燈と漸次強制的従量供給に進み、一方従量燈と電熱との個別的供給を收入に大なる變化なきやう併合し、而して新料金制の實施に當り、之れを需要家の任意選擇に委ね徐々に其普及發達を計り、一層需給兩者の利便を増進することに努力すべきものなりと信ずるものである。

電氣料金決定の分野

電氣料金を現在行はれて居る収益本位の基準に依らずして決定せんとするには、異つた觀察點から三つの分野がある。

（一）電力供給會社が自ら其使命に反省して、電力の生産費原價を明示し、それに一定の利潤を加へたるものを標準とすることである。

（二）國家が電氣料金に對し一定の基準を定め、立法的に準據せしむることである。

（三）民衆が其生活の上に覺醒し、電氣料金に對し無制限の低下を要求する運動である。

此の分野は各其の方向を異にして居る如く見ゆるが、之れを貫流するものは一であつて、電氣事業が公共的企業であることに何れもその基調を置くものである。殊に第三に指示せる電氣事業に對する民衆の覺醒は、それが要求であり運動である限り、具體的形相を顯はさない迄は、電氣料金決定の基準とはならぬやうに考へられるが、電力供給會社、若しくは國家としての立場から、電氣料金の妥當なる標準を決定させるには、先づ民衆の總意を此の方面に集注させて、現状の打破に努めなくては容易に實現して來ないのである。

産業の合理化と國產品の海外進出

東京電氣會社 山口喜三郎

經濟觀念に顯れた一傾向

最近十數年來、歐米諸國に於ける經濟觀念の上に顯はれたる變革は固より一二に止らない。而してその著しき事例の一として、トラスト、カルテル等の所謂産業合同組織に對する世人一般の見解が、こゝに全く一變するに至つたのを擧げることが出来る。

爾餘の問題は暫く措き、單にトラスト、カルテルに對する觀念が一般に如何に革まり、又その變革の原因が何處にあるかを^{たゞ}糾してみに、これは近代生産組織の總てが、何れも科學應用の上に基礎を置くに至つた結果である。詳言すれば即ちその必然の趨勢として大量生産組織の發達をみ、完全なる研究調査と精巧なる自働機械の應用とに相俟つて、種々なる工程の能率的改善が可能となり、仍て以て生産品質の向上と生産費の少なからぬ低減を促し、圖らずも一般世人の生活上に多大の好影響を招來するに至つたからである。又一方産業の國際的競争に於ても、これあるが爲めに或る海外市場を制し、若しこの産業合同組織に據るに非ざれば、遂にそれを當然失ふべかりしを、容易に維持し得るの事實を國民一般が察知するに及んだからである。

更に又、國家、國民を擧げての大量生産、即ち大規模工業に據る生産組織は、一國の公利公益を増進する上に於て極めて必要なこと

であつて、これを尊重、獎勵し、その進歩發達を期するは、何れの産業國に於ても忽諸に附すべからざるものである。要は唯だ動ともすれば生じ易きその餘弊を撓むるの方法を講ずれば足りるのである。

かうした、合同組織の是認論が次第に學者並に實際家間に行はるゝに至つたのも、亦大勢の歸趨をこゝに導くに與つて力があるのである。

大量生産化の勃興

如何なる場合如何なる生産事業に携はる者と雖も、その市場獨占の勢力を藉り、その製作品を高價に販賣せんとするが如きは、これ實に極めて短見者流の方策と看るべきであつて、到底斯業永遠の繁昌を期する所以ではない。如何なる場合如何なる事業に於ても、それが永遠の繁昌策を樹立せんとすれば、先づその需要者全體の利益を計り、最優良の生産品を最廉價に供給し、以て所謂營利と公益を一致せしめ、一般大衆と共に存し、共に榮ゆるの途を辿るの外はない。而して、そこに經營最大の自覺が存し、そこに經營最高の目標を置き、飽く迄も學術應用の徹底、研究調査の完全、事務及び勞働の大能率化を圖らなければならぬのである。

凡ゆる製造工業の大量生産化が叫ばれ、又これが實際に行れるに

至つたのは、前述世界産業界に於ける一大新現象と認められる合同組織化必然の結果であつて、彼此相倚り相援けて愈々益々その傾向を擴大せしめつゝある。而して合同組織に伴ふ大量生産化は、必ずその基調を所謂科學的經營法に置かねばならぬのであつて、最大最高の能率増進が取りも直さず最大最高の經營方策たるに及んだのである。

科學的經營法の採用

所謂科學的經營法の鼻祖は米國のテラーであるが、そのテラー式組織を總ての工程上に應用すると共に、各經費の微細なる分析類別を行ひ、操業上、營業上に於て苟くも故障ある場合、無駄の存する場合は、厘毛の微と雖もこれを忽せにすることなく、その除去改善に凡ゆる研究と實驗を遂げなければならぬ。而してその研究調査の結果、操業若くは營業上に最大なる利便を招來し得べしとの確信の上に立てば、一機械、一方法の爲めに、一舉巨萬の資を投ずるにも毫も躊躇を須ひず、斷々乎としてこれを實行するの勇氣と決心がなければならぬ。その他運輸に販賣に、何れも飽く迄も大膽に、飽く迄も細心に、且つ科學的組織的に、その事業全體の上から考へ、何處迄も忠實にこの理想の徹底を期し、大生産に必然伴はざるべからざる大市場の獲得を圖らなければならぬ。

而して以上に述べたるが如き見地からして、最近の歐洲諸國に於ては、國の内外を問はず、或は技術の交換を行ひ、或は更に進んで組織の連繫の大成を畫策しつゝあるのであつて、その事實は今日陸續として新聞紙上の外報欄に傳へられて居るところである。

國民生活の安易化

斯様にして、産業上の合同組織、並に大量生産化は現時世界の最大最重の問題であつて、これが使命及び目的に向つては、各國何れもその道理を飽く迄も極め、その研究を示し、結果の命する處に従つて、これが徹底的應用に忠實ならんとするのは、今日漸く旺なる提唱を看るに至つた所謂産業合理化の根本精神に外ならない。

這般のジネイブ國際經濟會議に於ても、これを以て生産増加、労働狀態改善、生産費低減等に缺くべからざる必須條件として認められ、遂にその勸告案の通過をみるに及んだ次第である。

斯くの如く熱心忠實に、斯くの如く細心大膽に、合同組織、大量生産の合理化主義に據り、國際的産業競争即ち世界の經濟戰に臨まんとする海外競争者に、若し我が産業界が徒らに今日の如く蝸牛角上の争ひに没頭腐心し、さらぬだに狹少なる内地市場に於てのみ肩々相磨し、讒譖中傷至らざるなきに、陋劣を極めた破壊的競争を敢て續くるが如きことあらば、これ全く自ら求めて我が産業合理化の發達を阻害するものであるといはねばならぬ。故に斯る短見者流の國內競争は速かにこれを止め、眼界を廣くして遠く海外に走らせ、合同組織並に大量生産の結果を以て、或は需要者の利便を圖り、或は軍需品計畫等と聯繫して、その生産品の標準化、單純化を斷行し、爰に國の内外に渉る一大市場を獲得するが我國焦眉の大問題である。而して海外に大市場を獲得すると共に、仍て以て更に生産組織の規模を擴大し、所謂産業の合理化を徹底的に行ひ、更に獲得したる海外市場を永久的に制するのでなければならぬ。而して又、一面内地の諸物價を低廉に導き、國民全般の生活を飽く迄も安易にせんとする道程に急ぐことが最も大切なのである。

國內産業の國際的進出

反之、産業合理化の重要問題を忽諸に附し、不用意の間に所謂舶來製品の輸入を促し、さなきだに乏しき我が國民の資力から、外國勞働者に對する工賃給料を支拂はしめ、外國諸産業の合理化にのみ便宜を與ふる結果となり、遂に我が目前の事象の行詰れるに焦慮、煩悶するが如きは、殊に我々産業界に身を置く者の大に戒めなければならぬ處である。若し今日我々にして一步を誤りて國際經濟戦裡に落伍せんか、將來何を以て年々七八十萬にも達する増加人口を養はんとするか。これは我が人口並に産業合理化問題にかゝるはる最大重要點と申さなければならぬ。

産業の合理化に據る生産増加が、如何に一國の人口を養ふ力を有するかは、米國に於ける自動車工業に就てもこれを充分察知することが出来る。現に北米合衆國の最大工業の一にして、未だ我國には殆んどその發達をみるに至らぬと稱してもよろしい自動車工業の爲めに、直接間接、その生活資源を得つゝあるのは、實に二千三百萬人の多きを數へて居るのである。

處で我が東京電氣の如きも、この見地に立脚し、極力産業合理化の原則に則つた經營に任じ、特に將來世界生産品の競争場たるべき隣邦支那の市場開拓にも努めつゝあるのであつて、十餘年來年々多大の犠牲をも顧みず、或はボイコットと闘ひ、或は歐洲の大ダンピングに苦められ、漸次こゝに商權の確立をなし來つたのである。現に最近出張店の増設を決定したハルビン領事館の報告に據るも、本邦輸出品にして同地方に戦後尙ほ戦時通り依然として販路を維持するものは、獨り我が電燈球あるのみとの由であるが、これを聞いて

我々はその責任の一層重且つ大なるを覺ゆると共に、經營合理化の如何に有効有利にして、必要缺くべからざるものなるかを痛感するのである。(實業の日本昭和二年七月一日發行『産業の合理化』號より)

産業の合理化

産業の合理化はドイツに於て最も熱心に唱導され、且つ實行されて居る。即ち

- (一) 無能無益の事業は斷然廢止すること。
 - (二) 同種類の事業はなるべく合同すること。
 - (三) 整理後の各種事業はその活動を取るべき合理的計畫を立てること。
 - (四) 技術及び組織を改善し、人員を淘汰し、あらゆる改善に依て生産費を切詰め、生産額を増大すること。
 - (五) 原料の仕入は各工場各自にせず、聯合の信用を以て聯合購買をなし、種々の協同方法を講ずること。
 - (六) 生産品は能ふ限り標準化すること。
 - (七) 工場から消費者の手元まで物品を配送するにつき、聯絡協同計畫を立てること。
 - (八) 廣告、運送、販賣等にも聯絡協同方法を採ること。
- 以上を總稱して産業の合理化と云ふのである。

金澤市電氣局陳列所に於ける照明陳列實驗

金澤市電氣局營業課

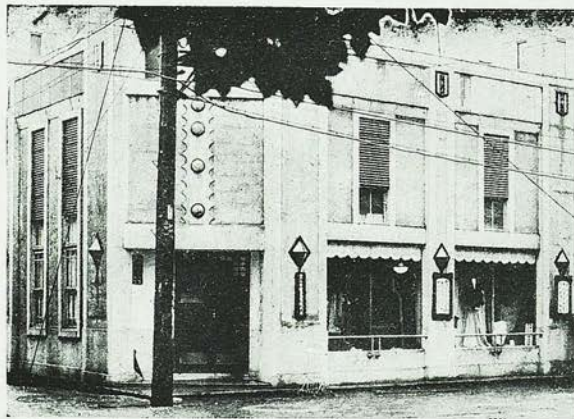
松岡常雄

ショーウキンド陳列法及其照明法は、今や商戦上前衛的地位として劃期的に進歩發展をなしつゝありて、各地其特有の風土習俗により着々研究せられつゝあるは喜ぶべき現象である。然し其指導機關や研究機關に於て満足すべき施設計畫は未だない様である。

時々各地に於て照明陳列競技會等も開催せらるゝが洵に結構な事と思ふ。然し之も年に一二度に限られたる短時日間に、或一陳列を審査して其優劣を定むるのであるから、其時の出來榮により不運にも官外に落つる者もあるであらう、故に入賞せるもの必ずしも平素の研究者と限られたる事もなく、之を以て直に其店に陳列巧拙の階級的印象を與ふるは忍びない場合があろうと思ふ。又陳列者に對しても唯一時的興趣を唆る位に止り、永久に研究心を起させるや否やも疑問である。

要はかゝる問題は臨機に考案し、稍成功したとて安心すべきものでなく、平常より絶へず陳列の要諦や、照明の應用を考究し人心の捕捉、購買心の誘起、店內への誘引と云ふ大使命を忘れてはならぬ。

此條件さへ具備して居れば一時的の競技に落選したとて、別に意に介する必要はない。此心得を持つて陳列したものには、必ず夫だけの効果は報ひられて居ると思ふ。故に照明に適當な陳列、季節に關す



金澤市電氣局陳列所全景

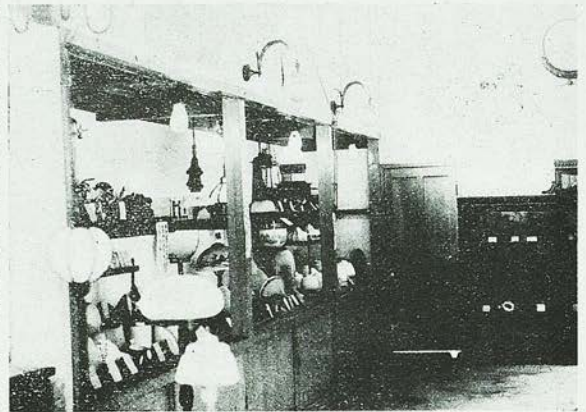
陳列窓の右側が陳列實驗窓
陳列實驗窓の照明
新マツダ 二〇〇ソット 六 個
同 四〇 二 個
外燈(新マツダ) 一〇〇ソット 二〇個

る陳列、商品に適する陳列等是不斷の考究を積んで、他の批評を聽き採長補短初めて稍々理想的の成果を得るものである。
今回金澤市電氣局陳列所に於ては如上の見地より、市内照明陳列が比較的幼稚にして尙深く研究の要あるに鑒み、市内各商店に從

して其研究せる照明陳列法の連續的實驗を行ひ、各自の研究を發表せしめ其成果に就いては、専門家及一般公衆より批評を仰ぎ、以て斯界研鑽の一助に資せん事を期し、去る一月中旬より陳列棚の一部（高九尺巾十二尺奥行四尺）を其實驗場に充て、所要電燈料のみを徴し場所代器具代等凡て無料で開放する事にした。

夫で第一回市内武藏辻、田守呉服店の出陳を初頭として、順次各商店の實驗を行つたが、今や回を累ぬる五回、益々質實と眞剣味を帯び來たり、各業夫々妍を競ひ美を爭ふて行人の目を奪つて居る。

一方其照明及陳列法の成績は毎回公衆審査の制に則り、別に専門家の批評をも加味して、審査蒐録を編纂し出陳商店は勿論、市内主要商店に遍く配布閱讀せしめて其參考に資した。然るに幸にも關係各

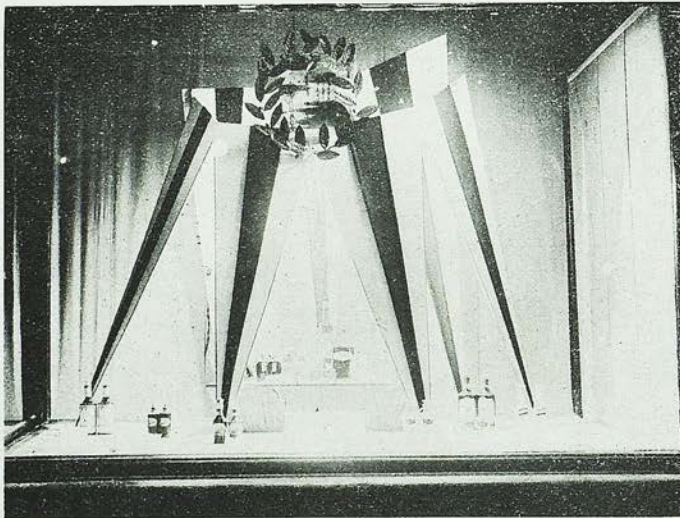


陳列所電氣器具陳列室の一部

室内照明

トロヂヤリヤA型(マツダ二〇〇ワット電球使用) 五 個
三燈アラケツト(マツダ六〇ワット) 燈、緑、黄 各一個
の各色電球使用 八個
棚内(マツダ瓦斯入一〇〇ワット)

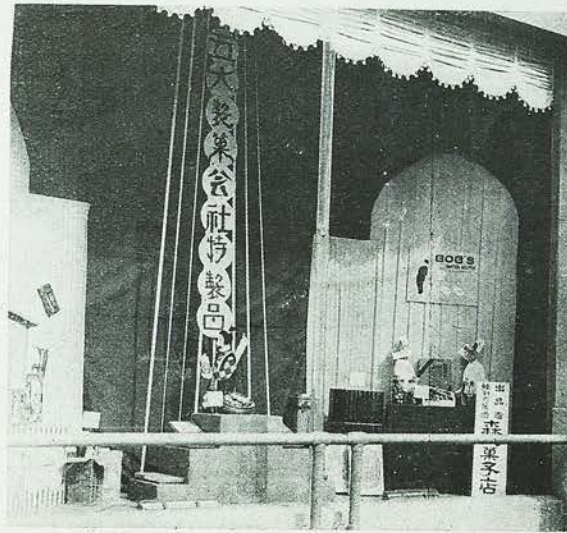
方面に一大センセーションを捲き起し、陳列希望者續出して己に六回以後十回迄は豫約済となり、鑑賞批評家は踵を接して投評し、熱誠を罩めたる多數の批評は係員を驚かすものがある。殊に今春來稀有の大降雪襲來により市街交通網さへ杜絶し、人心恟々の不安裡に猶本陳列に對しては鋭き鑑賞眼を以て、貴き批評を投ぜられたるもの殆ど降雪前に異ならず、如何に世人が本陳列に對し注視の眼を見開きつゝあるかを雄辯に物語るものにして、本所は此熱心なる投評各位には衷心より感謝の意を表して居る。



本陳列所主催照明陳列競技會一等賞

金澤市石浦町 中村化粧品店の陳列

開始日尚ほ浅き今日、其効果は未だ云々出来ないが、幾分現代の要求に應じたものか世間より豫想外の共鳴を得て、多少なりと斯界に貢献し得るは深く欣幸とする處で、今後一層の努力を以て邁進し、微舉幸に有終の美を收め、他日我金澤に於ける照明陳列界を他都市に



第十二回照明陳列實驗
陳列者 金澤市尾張町 森八菓子店
室内照明 新マツダ 二〇〇ワット 六個
脚 燈 四〇ワット 三個

冠絶せしむるを得ば本懷之に過ぎない。尚ほ實際的成果は今後の経過を見て、後日更めて御報するの機會があるうと思ふ。

今左に本實驗に對する規定を抜萃御紹介する。

- 一、場 所 金澤市電氣局陳列所第二號陳列窓内
- 二、照明ノ對照物 照明申込商店ヨリノ出品物
- 三、照明方法 申込者ノ希望ニ依リ電氣局ニ於テ工作施工

四、商品ノ保管 申込者ノ保管トシ商品ノ損害ニ對シテハ電氣局ソノ責ヲ負ハズ。

五、背景裝飾等 申込者ノ負擔トシ商店名ヲ表示スルヲ得

六、期 間 十日間ヲ一期トシ一回ノ陳列ヲ三期以内トス

七、申 込 書 申込者ヨリ所定ノ申込書ヲ徴シ電氣局其順位ヲ定ム。

八、使用料及手数料

器具使用料、工事手数料ハ無料

電氣使用料、所要電燈電力ノ晝夜間一ヶ月料金ノ三分ノ

一ヲ一期間(十日)分トシテ徴收ス

飾窓の照明強度

飾窓は明るい程その能率はよい。標準としての照明強度は街路の明るさ、附近商店の明るさ、陳列品の色彩等によつて一樣には申されませんが、先づ次の如き明るさならば宜敷からうと思ひます。

(イ) 街路照明が不充分で、附近の商店の飾窓もそれ程明るくない場合には

五〇米燭……一〇〇米燭 一平方尺當リ一、五……三「ワット」

(ロ) それ程明るくなくとも街路照明があつて附近の店も相當に明るい時には

一〇〇米燭……二五〇米燭 一平方尺當リ三……六「ワット」

(ハ) 街路照明も明るく、附近の店も明るい場合には

二〇〇米燭……五〇〇米燭 一平方尺當リ五……九「ワット」

(小西彦磨氏照明資料「商店照明附飾窓照明」より)

九州マツダ助成會創立總會の記

我が九州マツダ助成會は創立準備委員諸氏の熱誠と、會員諸君の熱心なる御後援とにより、去る四月七日初めて發起人會を開いてより僅かに二十日にして、會員既に百三十四名に及び殆んど九州、山口縣のマツダ取次店の全部を網羅するに至りましたので、五月四日折からの青葉若葉の五月日和りを福岡市博多商業會議所の大廣間に於て創立總會を開く事となりました。

此日會員八十四名、來賓十三名合計出席者九十七名に上り、會員中には遠きは佐伯、大分、別府、八代等より六時間乃至九時間に亘る旅行をつゞけて出席せられた方々も不尠、其熱心には全く驚くの外なく恐くは他に類例のない處と感しました。

午後三時半開會、山本大正電球會社事務座長に推舉せられ、同氏司會の下に、先づ松丸準備委員の本會成立經過報告あり、次で會則に基き植田東京電氣會社主事より、左記の如く本會役員の指名あり、玆に九州マツダ助成會の體形は成立したのであります。

會 長 山 本 信 雄 氏

副 會 長 荒 卷 芳 三 郎 氏

平 岡 治 平 氏

常任理事

中 村 誠 氏

松 丸 健 氏

常任理事 松 丸 健

理 事 石田光太郎氏 伊與田只平氏

莫 根 義 包氏 濱 田 英 一 氏

別 所 順 三 氏 中 島 精 二 氏

松 浦 豐 喜 氏 安 達 松 之 助 氏

三 善 菊 次 郎 氏 瀬 戸 長 藏 氏

監 事 松 尾 謙 三 氏 坂 本 治 作 氏

櫻 田 精 氏

評 議 員 池 垣 與 一 郎 氏 井 澤 延 雄 氏

石 田 清 氏 西 岡 東 啓 氏

田 村 貫 一 氏 玉 池 彦 次 氏

高 濱 德 次 氏 高 津 好 敏 氏

津 田 忠 一 氏 植 田 量 氏

野 村 勘 次 氏 正 清 清 次 郎 氏

荒 卷 與 一 郎 氏 赤 星 勇 平 氏

清 水 與 七 郎 氏 末 廣 健 藏 氏

以 上

玆に於て山本會長及荒卷、平岡兩副會長の就任挨拶がありました
が、何れも本會初期の最高幹部として、會員指導の重任を果される
に適當な方々でありまして、出席會員は何れも熱心に拍手を以て之



會長副會長就任挨拶の光景
(向つて左より會長山本信雄氏、副會長荒巻芳三郎氏、副會長平岡治平氏)

を歓迎したのでありまして、その會員一致の有様は誠に涙ぐまきばかりの光景を呈したのでありました。

次で山本會長は壯嚴なる態度を以て、左記の如き開會の辭を朗讀せられました、之れは全く本會の嚮ふ處を指示されたものでありまして、會員の脊々服膺すべき重要な文字でありました。

開 會 の 辭

今般時代の趨勢に鑑み九州及山口縣に於けるマツタ電球販賣者相計りて、茲に九州マツタ助成會の設立を見るに至りたるは誠に機を得たるものと信ず。

思ふに今や全世界は歐州大戰の慘禍に鑑み、舉げて平和の建設に努力し、或は軍備の縮小に、或は兵力の制限に、専ら力を盡しつゝあるも、其半面平和的戰爭たる經濟的競争は却て激烈に愈々深刻を極めんとす、此間に處して能く從來の名聲を維持し將來の發展を計らんと欲せば、須らく經濟的内容の充實を計り以て國家の基礎を固ふるに努力せざるべからず、而して如此は國家の一員たる吾人に於て各々何れも其職分に應じ、確乎たる自信と自覺とに依り、適當なる活動を爲すに非れば、其目的を達する能はざるは言を俟たざる處なり。

聞くが如くんば大戰後疲弊を極めたる獨逸に於ては、國民の一致協力と倦むことなき努力とにより、既に着々復興の途上にあり、殊に國民は何れも其従事しつゝある職業に應じ適當なる方法を講じて、國家の大計に參與しつゝありと云ふ、現に最近同國に於ける某電氣會社の重役は親しく米國を視察し、同國隆昌の原因が電燈照明の發達に負ふ處極めて多大なるを發見し、専ら其専門的立場より照明經濟を絶叫しつゝありと云ふ、誠に我意を得たるものと言ふべし。

今や我國は幾多天災の後を享け、最近更に未曾有の經濟的變動に直面し、正に經濟的危機に臨みつゝあり、吾等業を電氣に營み殊に照明經濟の根本を爲すべき電球の製造販賣に従事するもの

正に此間に處して奮發努力以て國家に奉ぜざるべけんや。幸に茲に九州マツダ助成會の成立を見たるあり、各自協力一致、販賣の増進に努むると共に、斯業上の研鑽を積み、共に照明經濟の爲め力を盡し、以て國家經濟上多少の努力を致さん事を希望して已まざる處なり。

茲に開會に當り聊か本會の目的と抱負の一端とを述べて開會の辭とす。

昭和二年五月四日

九州マツダ助成會

會長 山 本 信 雄

(總會議事)

順序に従ひ山本會長は議事に入る旨を宣せらる。

一、會則承認の件

は萬場一致可決せられ次で

二、事業計劃の概要

に付東京電氣會社西岡主事から大坂に於て最近計劃された事業の種類に就て説明がありまして、本會の目的達成に關する具體的方法が明かにせられたのでありました。

三、創立費報告

は櫻田監事から報告があり、異議なく承認せられました

次回定時總會場所及時日豫定の件

は會員中から動議が提出されまして、理事會一任といふ事に決定され、茲に無事議事の終了を見たのでありました。

右終了後來賓東京電氣會社山口副社長から興味ある一場の祝辭

がありました後、同じく大坂電球會社渡邊社長からも本會に對する祝辭を述べられました、本會創立の機會に當つて如此斯界の名士が列席せられ、且つ激勵の辭を賜はつた事を深く光榮とする次第で御座います。

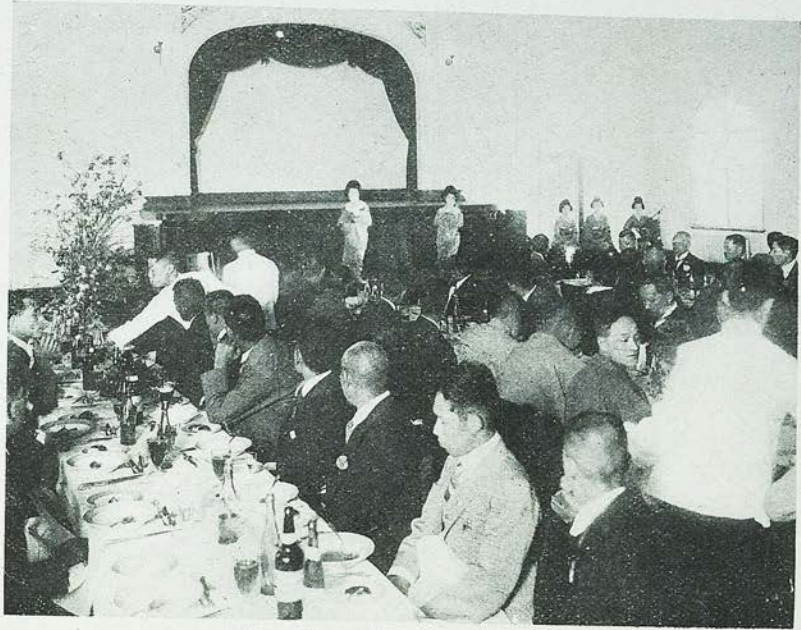
右を以てこの意義深き本會創立總會は終了したのであります。

(講演會)

茲に於て講演會に入り、東京電氣會社販賣部長清水與七郎氏は「マツダランプとマツダサーヴィス」なる演題の下に前後約一時間に亘り、明快なる雄辯を振はれ、大エヂソン翁が電球の發明を完成するに至りたる興味ある事實より、電球發達の歴史を語り、東京電氣會社が如何に斯業の上に努力しつゝあるかを事實に就て説明し、マツダ電球が堂々たる國産品なる事を強調し、更に同社が標榜する「マツダサーヴィス」の意義と實際とを説きて遂に照明經濟に及び電球濟世の大理想を説いて、一般聴衆に多大の感銘を與へたのは蓋し近來の大講演でありました。席末に列した吾々も改めて、マツダ電球販賣が直接間接に社會に奉仕する所以を悟り、意義ある業務に従事するの愉悅に陶醉しました。

(懇親會)

同日午後六時より同所に懇親會を開催し、大會列席者全部之列し、先づ艶麗なる博多美人の正調博多節舞踊の餘興に始まり、左右款語の内に宴はすゝみ、司會社山本會長の挨拶に對し、來賓總代山口東京電氣副社長の挨拶あり、次でいづこともなく九州



懇 親 會 の 光 景

マツタ助成會萬歳の聲起り、東京電氣、大正電球、大坂電球各社の萬歳相次で之につゞき、瑞氣一堂に滿つるの光景を呈しました。

此際の安達松之助氏の卒直なるテーブルスピーチは、誠に我意を得たる處でありまして、共に膝を交へ杯を交換して歡を盡す能はざる怨みはありますが、本會本來の目的に従ひまして、今

後も出來得る限り華美を避けて質素を旨とし、誠意ある會合の機會を重ねまして、親睦協調の實を擧げたいものと考へます。

追 記

一、本創立總會に際し御多忙中を態々電氣協會總會出席の時期を早められ、東京電氣會社山口、ブルスマン兩副社長、清水販賣部長、野口經理部副長、川崎社員、大坂電球會社渡邊社長、同田村專務、篠原販賣課長、帝國聯合電球會社本原常務、根岸監査役、望月主事、大正電球會社伊藤社長、關西聯合電球會社武田常務、倉持監査役、吉岡支配人等の各位が御列席下された事を深く感謝する次第で御座います。

二、本會はもともと山口縣並に九州全部に亘り、實行の豫定でありました處、何分にも地域廣範に亘り事業實行困難の爲め、不得已左記の如く、事業區域を四區に分ち、第四區は事務所より餘りに遠隔なると契約取引者、未だ寡少にして當分事業遂行の見込なきを以て暫らくの間之を除外する事となりました。

第一區 山口縣、福岡縣の内門司、小倉、八幡、若松、戸畑の各市及筑豊炭坑地方並に北九州全部

第二區 福岡市及其附近並に佐賀縣、熊本縣及大分縣日田町及其附近

第三區 大分縣(日田町及其附近を除く)

第四區 鹿兒島縣、宮崎縣、及長崎縣

三、本會の常務理事にして準備委員として種々奔走せられた東京電氣會社門司出張所長中村誠氏は、總會に先つ五日俄かに母堂の訃に接して歸郷せられた爲め、創立總會に列席するを得られ

なかつたのは誠に遺憾でありました。

四、本會創立に就ては發起人諸氏は勿論の事、特に左記準備委員の方々が御多忙中を數回に亘り、態々遠路門司市迄御集りの上種々御盡力下すつた御熱誠に對し、深く敬意を表する次第で御座います、小生も席末に列して、其都度親しく委員諸氏の眞摯なる態度と、熱心なる討議振りとを拜見して、深く感激を禁ずる能はざるものであります。そして如斯横斷的團結を必要とするに至つた時代の趨勢に驚くと共に、本會設立の無意味でなかつた事を深く喜ぶもので御座います。尙終りに本會にとつては生みの親とも云ふべき東京電氣會社西岡主事が準備委員會の都度、遙々東京から出張され、其豊富な經驗と知識とを傾けて御盡力下すつた事を會員諸君と共に深く感謝する次第で御座います。

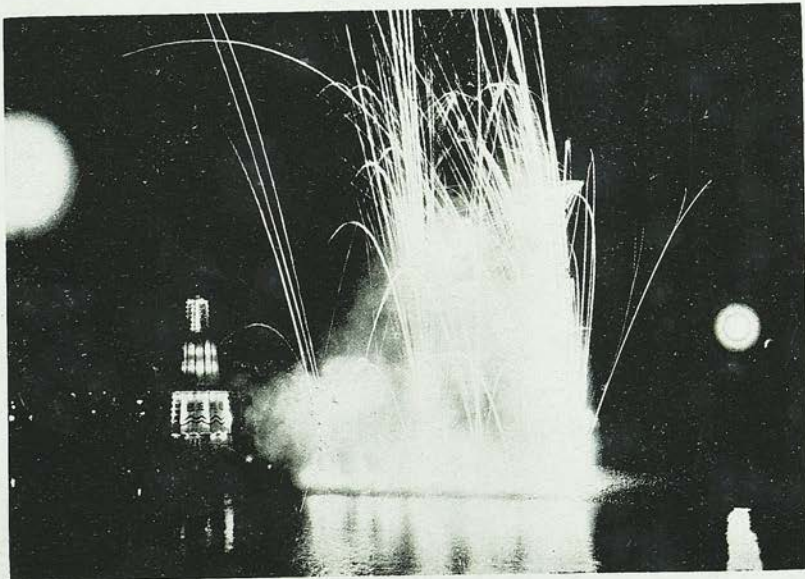
石田 光太郎氏	伊與田 只平氏
別所 順三氏	津田 忠一氏
中村 誠氏	中島 精二氏
山本 信雄氏	松丸 健氏
松浦 豊喜氏	荒卷 與一郎氏
安達 松之助氏	莫根 義包氏
三善 菊次郎氏	平岡 治平氏
瀬戸 長藏氏	

以上

札幌電氣軌道會社の納涼會

仕掛花火と五色の滝

電氣事業が公共的の性質を持つてゐる點からして、夏季に公園等を利用して納涼會を催すことが、各地に行はれるやうになりました。此の寫眞は昨年北海道の札幌電氣軌道會社が中島公園で催した心地よい納涼會の景況であります。寫眞の中央は仕掛花火、其の向つて左は五色のマツダ色電球を用ひた照明塔、一番左はマツダのハイウェイ、ユニット、向つて右の端はマツダの投光器であります。本年も八月、日新しい趣向の納涼會が催されるこのことであります。



趣味の科學

(七)

タングステンの日本學名

「君、タングステンは何と何の合金なんだい」
 「合金!! 合金じゃあないよ、立派な元素だぜ」
 「實は僕もそう思つて居たんだが、元素表にのつて居ないんだよ」
 「そんな事があるものか、元素表にチャンとのつて居るはずだぜ」
 「こゝに表があるんだが、君探して呉れたまへ」
 「一寸貸して見たまへ……………そうだね、なる程見當らないね、」
 「アツ、そうだ、何か外の日本名があるんじゃないかしら、」
 「そうく、たしか重石とか云つたぜ、タングが重いと云ふ事で、
 テンが石だ、と誰かにきいた事がある、重石で探して見やう」
 「何でも重いんだから、しまひの方だらう、鉛か金のそば位ではな
 いかね」
 「いや、ないよ。どうもおかしいね。」
 「それじゃあ、原子量をしらべて見やうか、此照明の本にあるかね
 ……………あつたぜ、タングステンの原子量は一八四だ、」
 「それでわかるだらう、元素表を見たまへ。エート、一八四は……
 オヤ、タングステンでも重石でもないぜ、

タングステンの日本の學名は? この問題の解決は讀者に残して

おかうと思ひます。

曆の改正

桂文男さん、と云へば、大概の方は御存じでせう。

「あの東京電氣で照明改善の宣傳に熱心な人だが、そう云へば此頃
 しばらく見えないね……………」と云ふやうなうわさが出るでせう。

同氏は健康を害されてしばらく静養して居りましたが近頃追々
 恢復されて、毎日元氣な顔を見せておられます。

その桂さんが先日『新日本の宣言書』と云ふ論文をくれました
 が、その中に曆の改正を論ぜられてあります、曰く『一ヶ年を十三
 ヶ月、一ヶ月を四週間即ち廿八日に改め、一ヶ月の週日を固定せし
 むる案等も甚だ良案なりとす……………』

この曆の改正と云ふ事は從來しばしば色々と論議されて來た事で
 あります故、桂さんの論文にヒントを得て、こゝに曆の改正案の數
 種を述べ、且つ現今の曆がいかに不合理なものであるかを御話しし
 やうと思ひます。

第一の改正案は八月の卅一日を卅日として、二月を廿九日にする
 案で、更に八月以後の大小を七月以前と同じく奇數を大に、偶數を
 小にすれば尙面白い。

關 重 廣

もとく七月が大なのに八月に更に大がつくのは誰しも不審に思ふ所でせうが、もとをたずねれば矢張り、之は小の月であつたのをローマのアウグスツス帝が自分の名を取つて八月に名付け、(英語でアウグスト)そしてジュリアス、シーザーの名を採つた七月(ジュライ)が大の月なのに自分の月が小ではないかん、と云ふのでわざ／＼一日を増して大の月にしてしまつたためです。このために後世の人のかうむつた不便はどれだけかわかりません、昔の帝王はすい分勝手な事をしたのではありませんか。

是に比べれば、その時限りのネロの暴狀の方がどの位ありがたいかわかりません。

尤もアウグスツス帝のおかげで夏期休暇が一日長いのですから、學生たちの恩人かも知れませんが。

此外色々工夫した案もありますが、それは略して、桂さんなどの主張される改曆案は一月を廿八日として、一ケ年を十三ケ月とする案です。すると一ケ月は丁度四週間となり、毎月の日と週日とは一定して便利で、尙かうすると一年が三百六十四日となつて最後に一日残りますが、これは月にも週にも入らぬ、休日とするのです。

終りに小生の案を申さうなら、小生は週か月か、いづれか一方だけにしたいと思ふのです。週と云ふものが必要であるならば、週だけにして、第二週、第三週……第五十週と云ふ風にすればよいでせう。月なんかをもうけるより餘程簡單だと思ひます。

然しこの案にしろ、前の案にしろ、祭日の曜日が常にきまつてしまひますから、來年の曆をくつて、二日つゞきの休みをさがしたり

日蝕を心配したりする興味は失はれてしまひそうです。

擬次に現在の曆の不都合な事は一口に一ケ月と云つても、一月と二月とでは三日もちがふのですから、金を借りるに當つて二月は日歩計算の方が得であるし、一月は月割で行つた方が有利であつたりします。

また御互いの家計にとつては二月は中々有難い月ですが、大きな寄宿舎の炊ひなどは、二月は數百圓も、もうける事があるんです。

こんな事は御金の問題ですからまだよい方で、罪人が禁錮される場合に同じ三ケ月の刑でも、七月に禁錮された場合は二月に禁錮された場合よりも三日間多く苦しい想ひをしなければならぬ、などと云ふ事は、重大な人道上的問題だと思ひます。

最後に一寸御注意を申し上げますが、鐵道の回遊切符に六十日間通用などと云ふのがありますが、此六十日を二ケ月と解すると大變です。嘗つて或る學生が夏休みに二ケ月通用のつもりで、旅行して、最終日に一日超過だ、とて罰金をとられたと云ふ話があります、而も此人は多くの旅行者がそうであるやうに、此最終日には殆んど金が残つて居らなかつたのですから罰金も出せず無銭乗車と云ふので新聞の材料にまでされました。此人は七月が大の月だと云ふ事を忘れて居たのです。

かういふ事件はまだ度々起つて居るかも知れません。一寸罪な規則だと思ひます。二ケ月とすれば一番間違ひないのに。

(紀行その一)

今日の正午で我天洋丸は北緯二三度一一西經一六一度三五、横濱よりの走航距離三、一五六哩の地點を示して居る。

最早吾等の船は熱帶圈内に入つて居るのである、ホノルル迄餘す處二四四哩多分明朝八時頃には入港するであらう。

十九日以来晴れ亘つた空は今尙ほ好晴を續け、氣溫七十五度潮風も生溫るく男性的に射る日の光は、千尋の水に入りては紺青の色をイヤが上にも鮮かにして居る。屹度水の底には珊瑚の山もあれば龍宮城もあるに違ひない。

今朝フト南を眺めると紫に霞んだ脊の高い島が、默然として彼方に現はれて居た。「島だ島だ」と云ふ一人の聲は他を誘ひ、他を誘ひ合せて豫知せぬ此島に皆の瞳は集つた。

「布哇群島の一つだらう」と地理不案内の連中の塊りは喜んで居る。然し此地に精通の人の説明によれば、彼の島は鳥島と稱する無人島にして、時折鳥糞の採集に船の立寄る事あるのみと聞き、幾分

南國の海



椰子
弘

興の覺めたる心持せしも、日本を解纜して十有餘日初めて接したる陸の姿なれば、實に大なる慰安である。

陸が次第に近づきつゝある爲めか、今日からは今迄姿を見せなかつた小さい水鳥の群の訪れもあれば、又「飛の魚」は午後の強い日ざしに銀の片腹を輝かせ乍ら、次から次へと船と直角の方向へ飛び去つて居る。

靜かに形造られ靜かに消え行く幾多の浮雲は、節廻し面白く作られた民謡の奏での如く、殊に夕やけ時の色の變化を伴ふ時見る人をして天國に遊ぶの感を抱かしむる。

マストには標識燈は掲げられ、夕れ行く南國の海に船は靜かに東に向つて進んで居る。

宵の明星が澄み切つた空氣を通して華かな大きな光を吾等が船に送り明日の好晴を暗示して居る。

(四月二十二日天洋丸にて)

「常夏の樂園」(紀行のその二)

四月二十三日早朝船はホノルル港外に停止して、檢疫使の來るのを待つて居た。昇つたばかりに朝の日ざしに、ホノルルの市も其郊外も逆光線を受けてコバルト色に霞んで居た。税關の時計臺は吾等を迎ふるが如く嚴然と控え、ダイヤモンドヘッドは横はれるライオンの姿の如く右手に突出して、恰も布哇群島の主護神然と聳えて居た。

午前十時頃久方振りで陸の人となつた。抵抗ある歩の運びに無上の喜びを感じ、船中同じ食卓の一行と自動車を驅つて、市の内外に點在する此地名勝古蹟の見物をした。どこ迄行つても盡きぬアスファルトの舗装道路を三十五哩の連續スピードで走る心持、其朝迄の船上のフラ／＼した生活と比べては痛快を呼ばざるを得なかつた。

日本を旅立つ頃私の想像した布哇は常に移民の群を連想するので、従つて開化した場所ではなからうと決め込んで居たのであるが、現實に見たホノルルは私の想像を裏切る事誠に大なるものであつた。

都市の計畫、大商店の櫛匹、自動車の發展振り、遊覽者の收容力、實に合衆國文明を其儘移植して居るの感が歴然たるものであつて、總ての事物に接する毎に初航者の私にとりては、早や洋行の第一課程を得たるが如き心持がした。聞けば此地は米合衆國の第一指に擧ぐべき遊覽の地となし、且つ又太平洋上の中心たらしむべく、總てが大企模に計畫進捗せられつゝあるものと云はるる。

熱帯なる地理的關係に恵まれた植物の繁茂は、その美しさは一層

大なるものであつた。四季を通じ最低氣温六十五度最高八十二度を示す此地には、摘めども芽生えは速かに、採れども採れども豊富な肉を持つた果實は、枝も折れよと實のつて居る。色とりどりの草花に圍まれたバンガロー式住宅がビロードの如き、柔かな芝生の上へ調和よく建てられ、ヤシユの大木の根元にはエメラルドの海が展開し、幾多の小鳥は寒さを知らずに、一年中喜びに溢れた囀りを續けて居る。實にホノルルは常夏の樂園である。

此地最近の調査に依ればバインアブルの年産一生果二萬四千九百弗、罐詰二千三百萬弗、砂糖の產出七十六萬噸を示し、布哇の總人口二八三、〇〇〇中邦人二二〇、〇〇〇即ち約六割、ホノルル市及近郊に於ける自動車總數一六、二〇〇臺を算す、以て文化の度を知るを得べきである。

此市商業街の中央部に一軒の電氣店があつた、丁度角店であつて入口を角に設け、左手のウキンダーにはスタンド類の陳列あり、右手のウキンダーにはレーンチ類の陳列あり、此の部分のウキンダーを透して店内を覗き得るやうに出來て居た。店内は三區分となり居り、入口の區畫には家庭電氣用品を綺麗に配置し、中央の區畫には店内に特に建てられたバンガロー式一室に各種の照明器具類を取付け、一々點燈し得る如く配線せられ、最後の區畫にはラヂオ製品一切を陳列して居た。

店内の入口には多數の各種印刷物が整頓せられ居り、來客の何れにも手軽に持歸れるやうに配置され、其右手には内面艶消の電球が來客の目に入るやうに、綺麗なテンプルの上に重ねられて居た。此種電氣店を東京の夫れと比較する場合、吾社の銀座陳列店又は三井

物産陳列所と匹敵すべきものなるを知る。

又其近所に額縁とフロアースタンドのみの商店があり、其調和實によりしく快感を得た。額縁もフロアースタンドも室内装飾品として



ボンチボール丘上にて

何れ劣らぬ價值あるを知る時、敢て電燈が黯くからと云ふて美しきスタンド類を、稍もすれば美の感念を失ひ易き電気店の専賣品とするの必要なかるべく、此店により私の常々考へて居つた第二の電気用品店の出現せられ居るのに少なからざる興味を感じた其他悠然として迫らざる大ウキンドーの中に、整然と代表商品の陳列してある幾多の大商店を見て得る處大なるものがあつた。

自動車がホノルル第一位の住宅地域マノア谷を通る時、夏草燃え百花亂るゝ中に兵舎の點在するあり、又其附近にて十數門の野砲の手入れしきりなりしを見る。

又天人掌が無造作に茂つて居るボンチボール丘上からホノルル市街を一目に見下して居る時近くの窪地で守備兵の標的實彈射撃に餘念なきに氣付き、飛行機は空高く飛び、遠く霞む軍港には大容量の無線の鐵塔が夢の如く浮んで居るのが眺められた。然し傍らの名も

知らぬ赤い大輪の草花は如何にも平和に咲き亂れ、エメラルドの海洋には少しの風波も無かつた、飛び去らうともしない小鳥の囀りに閑日な樂園は其極致を見せて居たが、耳に入るプロペラのひびき實彈射撃の銃の音、目に入る無線の塔等、平和と軍備の風刺的場面にある強い何物かを感じられてならなかつた。



ボンチボール丘よりホノルル市街を望む

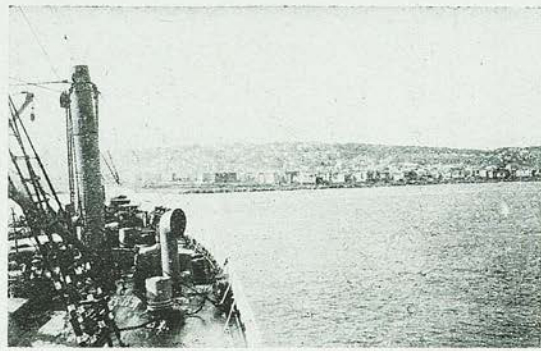
此日のホノルルは八十度に近き寒暖計の示度に、時折り車を下つては大樹の木蔭に汗を拭きし事も幾度かであつた。夕方六時船は再び桑港指して此地を解纜した。沈みかゝつた夕陽を斜めに受けたホノルルの市には、早や重さそうな白雲の湧き上り、今迄晴天なりしオアフ島はヌアヌパリの谷に虹の現はるゝや、たちまちに熱帯名物の夕立を浴びて居た。

(四月二十八日天洋丸にて)

移民官 (紀行その三)

日本を出る時に桑港には日本語がベラ／＼の女史移民官が居るか、それに當つた人は上陸が楽しくだと云ふ話を聞かされた。僕等も出來得る事なら、此女史に當り度いと心に願つて居た、横濱の米國

領事館で旅券の裏書をして貰つた時、副領事の人が云ふに「海外へ出て移民官の不親切な事程氣になるものはない。自分も各國を歴訪したが此點が一番氣になつた」と云はれ、僕等の裏書に對し非常に



金 門 灣 の 外 に て

親切を盡して呉れたが、此上は桑港の移民官さへ樂な人が出て呉れれば、僕等の米國上陸は實に理想的なものの一つとなるのであつた。

四月二十九日朝太陽が上つたばかりであつたが、最早船の前面には薄絹で包んだやうな陸が横つて居た。これぞ十有六日航海で吾等の目指ざして居た米大陸の姿であつた。

風は稍強かつたが天氣は快晴であつた。然し南方で見たやうな夢の如く美麗な水の色は二度と眺める事が出来なかつた。幾つかの名も知れぬ小島が、船の左舷の方へ動いて來ては再び水平面に隠れて仕舞ふ。艦には無數のカモゲが入亂れて輪を書き乍ら餌を採つて居る。

九時頃船は一旦金門灣外に定船した。それは云ふ迄もなく檢疫使と移民官の調べが始められる爲めであつた。サルーンに集合した船客を檢疫使は一通り調べると云ふよりは寧ろ、眺める程度にして人数を數へて去つて仕舞ふ、これで檢疫は終つたのである。それから

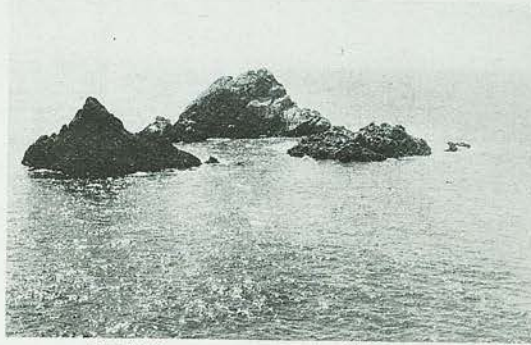
三十分程経て、サルーンの要所々々に日本とか米國とか人種を大別した標札が掲げられ、其下には移民官と助手が二三人宛座を占めて、巾二尺長さ四尺もありそんな書類を數十枚重ね乍ら整理をして居た。僕等が移民官の席に行つた頃は、既に公用の爲め渡米の邦人が調べられてる最中であつた。「占めたッ」と思つた、それは日本人係りの移民官が六十近い女史移民官であつたからである。そして彼女はとても流暢な日本語をペラペラやつて居た。ことによつたら吾々よりも上手な位である。

之迄渡米した経験のある人の話では、若し移民官に何の爲めに渡るすると問はれた時には「決して何々會社へ行く」と返事してはいけない。それは答へた會社へ稼ぎに行くと思はれるので、上陸が六ヶしくなるから、何んでも其時の返事の要領は「何々事業の視察に來た」と云へば、譯なく通過するとの説であつたから、僕等も若し普通の移民官が出たら右の要領を器用にやつてのけやうと思つて、心の中で種々と英語の文句の配列に餘念なかつたものであつた。十有六日支那人ボーイを相手に英語やら日本語やら解らぬ言葉ばかり用いて來た初洋行の僕等に取つて、眞の英語の皮切りである移民官の調べは、心配の一つではあるが又楽しみの一つであるのである。それが吾々の移民官は吾々よりも達者な日本語を用いらるゝので樂は樂に違ひないが、初洋行の英語の皮切の楽しみが消えたので、少々失望した點もなきにしもあらずである。僕の順が來たので移民官の前に出た。彼女は「紹介狀お持ちですか」と問ふたから「これで」と紹介狀を出したら「結構です」と云ふた切りで上陸の手續は済んで仕舞つた。全くあつてなかつた光景であつた。

桑 港 の 第 一 夜

東京で四月の末と云へば小金井の櫻も散つて仕舞つて、暖い南風が關東の平野を柔かくかすめて、暑く無し寒くなしの四季を通じて

最も良い氣候である。桑港は



桑港郊外シールロツク。右端岩上にゴロ
ゴロ見ゆるは總てカウツセイなり。

緯度に於ては日本の青森附近に位置して居るが、案内記に依れば平均温度五十五六度を示し、夏も冬も氣溫の差の最も少ない理想郷と呼ばれて居る。然し僕等が上陸した日の桑港は豫想に反し、餘りに寒さが厳しかつたので閉口した。幸ひ荷厄介とは思つたが日本から持参して來た冬オーバーがあつたので、辛うじて凌ぐ事が出来た程であつた。

米國の都市で吾々を驚かすものは建築物の高さよりは寧ろ、其宏大さと莊麗さであらう。一つの店の店構えにしても各々數十坪の飾窓を有し、それが大きい美しい光澤の硝子で圍まれ、其中に目榮ゆきばかりの商品を陳列して居る有様を見る時、商店が客惹きに提供して居る廣告用の單なる飾窓と云ふ感じよりは、飾窓その物が一種の偉大なる藝術美のある事を知る。

飾窓中殊に美しく目立つて居るものは靴店、洋品店、衣裳店等で

あらう。

桑港の主要街路には高さ三十尺程の三燈用及二燈用の高級街路照明柱が整然と立て並らべられ、各グロープには五〇〇ワット以上の電球が整然として點燈せられ、宏大なる建築物と相俟つて街路に良き調和と氣品を與へて居る。

トウィンピークが晒色の夕焼空に暗紫色に浮んで見える頃になると、各商店の電燈が一入目立つて来る。中にも未だ暮れやらぬ空に輝く色取々のサインの姿は實に美の極致と稱すべきである。晝間立體美として莊麗なる都市は、夜の訪れるにつれ輝きの都として、再び偉大なる藝術美を行人に味はしむるのである。

電氣サイン程、夜の都市に懐しみと憧憬をそゝるものは他に無からう。輪廓や字體を現はすを唯一の目的とした往時の電氣サインは早過ぎて今日では輝く繪具、即ち着色電球によつて如何に美しき廣告藝術繪畫を作るか、新傾向である。而かも此輝く藝術繪畫は複雑なる點滅裝置によつて生命附けられ、爲めに必ず行人の目と足を數分或は數十分間惹き止めずに居ぬのである。

電氣サインのも一つの新傾向としては、ネオンや水銀其他の瓦斯を封じ込みたる放電管を利用して、輪廓や字體を思ふが儘に作り上げ、其特殊の光源により行人の速かなる注意力と快感を惹く方法である今日の米國都市の夜は、此二つの電氣サインによりて殆んど征服せられつゝある事を知る。

之等の新傾向に富んだ桑港の夜のサインは、初渡航者に非らざる定住者にも屹度、大なる効を奏して居る事を堅く信じて疑はない。

(四月三十日桑港にて)

商業の電氣化 (紀行その四)

五月廿五日の午後、紐育の空は遽にかき曇り四時過ぎる頃には電光さへ閃き渡り、常ながら光線不足の下街の商業地域は、全く黄昏時に等しい有様と化して仕舞つた。紐育建築界の殿堂と呼ばれる、ウールウオース、ビルディングの絶頂は早や重苦しく垂れこめた雨雲の中に没して居た、これ將に摩天閣の正體と稱すべきであらう！

「時は金なり」と云ふ諺が洋の東西を通じて戻らざる金言とするならば、複雑した今日の商業界を能率的に活動せしむるには、勢ひ總ての商業單位が一地域に密集して來なければならぬ。そして其密集は平面的でなく、立體的であらねばならぬ。電信電話が出來た、電車が地上、地下を高速度で飛ぶ、之等は何れも往時の商業單位を平面的に密集せしむるに偉大なる効を奏せし事は今更述べる迄もない事實であるが、然し之等の施設にのみ今日の商業の總てを委ねる譯けには到底行かぬ。それは商業取引の大團圓が常に人と人、人と品物、或は人と書類の接近に俟つ事が常であるからである。

商業の大團圓が人と人、人と品物、又は人と書類の接近にあるとするならば、商業を營む各單位はどうしても或地域に集合して立體的に存在せねばならぬ、詰り總ての建物が機械的に立體態形を帯びねばならぬ事である。

此原則により今日の都市商業地域の建築物は互に寸尺の境もなく相接し、天空を摩せんばかりにグン／＼伸びて行くのである。斯如く建築物が相寄り摩天閣を形造るに缺くべからざる重要な要素が

一つある。それは即ち電氣力である。素より基礎や建築構造が機械的形狀の基をなす事は云ふ迄もない。

されば今日の商業は電氣力に依つて、始めて最も經濟的な立體態形を形造り得ると云ふ事が出来る。

建築物が高く伸び加ふるに各々が相接して來れば、建物内に入る自然光線の量は著しく減じ、大部分の室には常世の黄昏を生む。そして多くの人々が長時間此處に立働くとせば、それは確かに文明が産する一つの生地獄でなければならぬ。若しも今日電燈照明方法が完全に研究發達せられて居なかつたならば、如何に基礎が完全であり、如何に建築施設物が進歩して居ても、今日の如き商業單位の接近は多くの人の運命を、地獄の犠牲にせぬ限り不可能であらう。

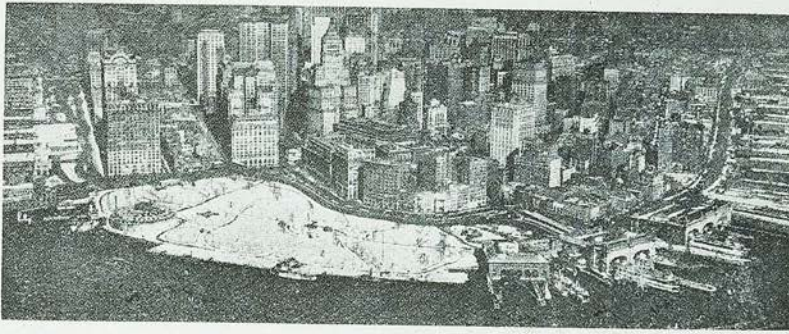
炭素線電球はストレイトタングステン電球に置換へられ、それが又瓦斯入電球に置換へられ、照明界に偉大なる革命を興へた事は極めて最近の事である。今又普通瓦斯入電球は内面艶消の新電球に置換へられつゝある。

殊に紐育市の總ての電球が内面艶消電球に置換へられて仕舞つたと云ふても過言ではない。住宅に於ても、商店に於ても、電車に於ても、電氣サインに於ても。斯くして新電球の出現毎に立體的膨脹の生む常世の黄昏はより經濟なる人工光線に依つて調節せられて行くのである。

紐育市の中心即ちマンハッタンの中心に二大停車場がある。一つをグランドセントラル驛と呼び、他をペンシルベニア驛と稱する。そして何れの驛も、驛を中心として大小のホテルが其附近に位置し

て居る。

僕等はシカゴでペンシルベニア線を選んだので、僕等の汽車はペンシルベニア驛に到着した。同驛の前にある同名のペンシルベニア



摩天閣ならぶマンハッタン中心の商業世界

ホテルは最も設備が優れて居ると云ふので、多くの人は此處を選ぶ。此ホテルは室數二千二百を有する二十四階建であるが、幸ひ四棟に分れて居るがために、他の建物に比較して自然光線の量も多く入る方である。

紐育に到着した日の翌日は、壹萬哩に垂んとする船と汽車の旅に、採まれた身體を始めて落付いた氣分でベッドに横えたせいか、すつかり寢込んで仕舞つた。フト目がさめてK氏を起すとK氏は直ぐにベッドを下りて窓のカーテンを上げた。室内はドンヨリと暗らかつた。未だ夜明けかしらと思つて時計を見ると驚くべし午前十一時を過ぎて居た。それにしては餘りに暗いのでK氏に「雨降りがい」と尋ねたら、K氏は上半身を窓から出して、空を見上げて居たが「どうして快晴だよ」と云ふ、餘りの不思議さに自身窓際に立寄つて空を覗き

上げて見た。成程快晴だ、そして隣りの建物の片面には、晩春の強い日光がキラ／＼と反射して居た。それでも自分達の室の内は黄昏時の明るさしかない。スキツチに指が觸れた!! 部屋は外と變らぬ暖い春日となつた。一個のシーリングライトと二個のテーブルスタンドは、吾等が作る吾等の部屋の太陽であつた。テーブルスタンドの新マツダから流れる柔和な光は、絹カーテンを透して來る春日射し、そのものと變りがなかつた。快晴の日しかも相當に自然光線が入る部屋で此有様である。紐育の天候は一年の平均を見るに六割五分が晴天で、残りの三割五分は雨天である。人工太陽の役目は益々以て多忙と云ふべきであらう。

摩天閣と呼ばれるウールウオース、ビルディングは高さ八百呎、六十階の高樓にして三千の事務所が相寄り、一萬二千人の人が毎日働いて居る。今若し六十階の階段を徒歩で昇るとしたら、丈夫な壯年者でも、小一時間はかゝらう。それ故にか弱い子女や老年者には屹度半日仕事に相當しよう。それが廿四臺の高速エレベーターがあるばかりに、一分間七百五十呎の速度で、幾万の人々が毎日上下して居るのである。此建物一つに供せられて居る電氣全體の設備があれば、人口五萬の都市に電氣の供給が出來ると稱せられて居る。斯く觀じ來れば今日の建築物は單なる建物にあらずして、複雑した機能をも有する一種の電氣機械であると云ひ得るのである。

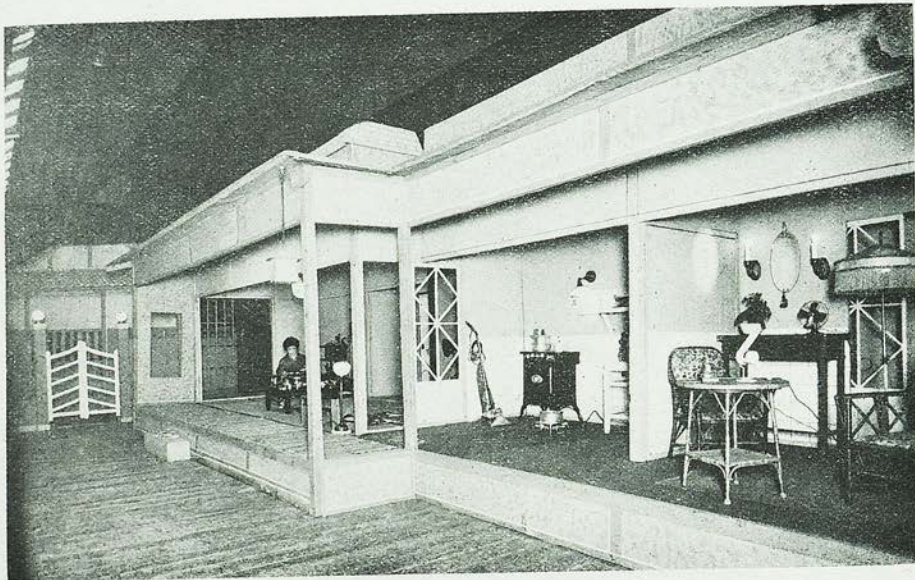
紐育の商業の中心マンハッタンの南部、否世界の商業の中心マンハッタンの南端の大建築物は、電氣機械化の下に經濟的立體態形を形造りつゝある。これ即ち商業の電氣化と稱すべきではなからうか。

(五月二十六日紐育にて)

電 喜 劇 化 「ス キ ツ チ」

良く云へば人情味の多い、悪く云へば大阪式の惡どい曾我廼家劇、其の喜劇の電化を仕組んだ『スキツチ』を新橋演舞場で観た。時は五月二日。

船板塀に見越の松ならぬ居間も炊事場も一切電化してある文化住宅、其の文化住宅にかこはれてゐる妾の岸澤花子は、旦那の實業家今井宗兵衛が旅行することになったので、情夫の音曲師加藤吉五郎を呼びよせて、チン／＼鴨ならぬ牛肉の肴で、巫山の神女の夜の雨、しつぽりやらうと支度してゐると、宴會歸りの三人伴れの酔っぱらひ紳士、前にゐた友人が未だ其の住宅にゐるつもりで押しあがり、先づ食卓の上の電気鍋のスキツチをひねつて、彼の牛肉を煮、ビールを抜いて、飲むほどに喫ふほどに花子が出て來たので、酔っぱらひ共は驚いて逃げだした。花子は其の後で女中を加藤の所へやつたところで、旦那の今井が本宅の手前をつくらつて、妾宅で一泊して旅行するつもりでやつて來た。花子は困つて氣をもんでゐると女中が歸つて來て、加藤がおつつけ來ると云ふので、髪を結うて來ると云つて外に出、加藤に逢つて旦那の來たことを話すと、切られ與三を現代式に往つたやうな加藤、内へ入つてシガライターで煙草を點けて好い氣になつてゐる今井に、情婦を伴れてゐるから離屋を借



電 化 喜 劇 『ス キ ツ チ』 の 舞 臺 面 (其の一)

松
葉
外
史



電化喜劇『スキッチ』の舞臺面（其の二）

してくれと云ふと、何所までも人の好いのが喜劇の旦那の本領、入つて来る女の顔の見えないやうにとスツキチをひねつて暗くしてくれたので、二人はしすましたりと離屋へ入つて往く。後で今井は粹を利かしたつもりですましてゐると、自動車の運轉手が妾宅へ運ぶはずの手荷物を本宅に運んだので悪事露見、今井の本妻は令嬢と女中を伴れ、運轉手を案内にして暴れ込んで来た。今井は逃げることもできないので、貸してある金の催促に來てゐると云つて、加藤にばつを合はしてもらひ、加藤の後から出て來た妾は加藤の細君と云ふことにして、其の場はやつと納めたが、貸金催促の手前、加藤から金をもらはなくてはならないので、自分の懐の金をそつと加藤に渡すと、加藤は其の金の半分を取つて、其の半分を差し出した。女は取られるし、金は取られるし、さんざんな目に逢つた今井は、口惜しくて口惜しくてたまらないが、手の出しやうがないので、仕方なしに加藤と女に挨拶して歸つて往くのであつた。

川 柳

わたしをばばかりした氣さと内儀いひ。
あいさつにむだなわらひの有る女。
口上を下女は尻からゆすり出し、



梗概

昭和聖代の文化の光輝に浴する事もすくない山間の一寒村に平和に暮して居る一家があった。

父を橋本泰三と云ひ息子を啓藏と云つた。此の村には名高い女流音楽家の別荘があつたが、啓藏は其の別荘へ出入する歌劇女優の田村麗子に戀するやうになつた。彼は誘惑の魔手にかゝるとも知らないで、父を捨て、妹を捨て、許婚の女を捨て、東京へ走つた。麗子の力を借りて啓藏の許婚のお加代を誘惑しようとしてゐた不良青年成富清吾は、啓藏に合はしてやると云つて、お加代を誘拐して上京した上で辱めた。

お加代は國へも歸れないので、カフェーの女給になつてゐたところで、運命の引合せによつて偶然に啓藏と出會つたが、吾身の汚れを恥ぢて啓藏から逃れやうとした際、不良青年成富清吾一味と啓藏との間に大格闘が起つて、啓藏が危険に陥つたので、お加代は無意識の中に清吾を刺して啓藏を救つた。それが爲めに彼女は牢獄に繋がるゝ身となつた。その一方で啓藏は日本に於ける電化研究の權威香川博士の危難を救つたのが縁となつて、

博士の知遇を得て村の水騒動を未然に防ぎ、農事電化事業に多大の貢獻をして衆人の尊敬する處となつたが、彼の胸には大きな傷の痛みがあつた。そして又冷たい獄にあるお加代は、彼女の眞實な未來の夫啓藏より来る温い手紙になぐさめられて唯出獄の日を待つて居るのであつた。

監督……………小谷ヘンリー
 原作……………野村 務
 撮影……………橋 詰 博
 脚色……………佐々木 奎郎
 装置……………尾崎 章太郎
 字幕……………村田 安司

役と人物

橋 本 啓 藏……………山 田 直
 同 泰 三……………久 保 田 正 雄
 同 加 代……………九 十 九 一 子
 同 お 鈴……………橋 文 子
 成 富 清 吾……………小 田 明
 香 川 豊 司 郎……………池 田 東 州
 同 露 子……………石 井 喜 美 子
 田 村 麗 子……………葉 山 三 千 子

第 一 卷

1、(字幕)

『山間の農村——そこに極めて貧しくはあつたが平和に幸福に暮して居る一家があつた』

2、(字幕)

(お加代——彼女は幼くして両親に死別れた孤兒であつた橋本家に養はれて既に拾年やがては啓藏の妻として許されてゐる娘であつた)

爐端の薄暗い電燈の下で一冊の雑誌に読み更けつてゐる啓藏の側で針仕事をして居たお加代とお鈴は、父親の泰三が居睡りをしたのを見て悪戯をして笑ひ入る。啓藏も笑ふ。

3、(字幕)

『かうした平和な團樂にやがて怖ろしい鯀の入る時が來た』

4、(字幕)

『或る別荘の美しきお客様——それは都で華かな生活をしてゐる歌劇女優であつた』

別荘の玄關から女主人公に送られて出て來る洋装の女優麗子は、



見 か は す 眼 と 眼

門の前で馬に乗る。すると物蔭から出て来た男——不良青年の成富清吾——がなれ／＼しく彼女に話しかける。

5、(字幕)

『少し頼みたい事があるんだ』

二人は何事か相談しつゝ村の道を行く。それから間もなく麗子は啓藏の家に近い道を駈けてゐた。家の前で仕事をしてゐた啓藏は亂れた馬の足音をきいた。見れば洋装をした女を乗せた一頭の馬が暴れて居る。啓藏は駈けつけた。馬上の麗子は遂に落馬した。啓藏は抱き起した。

6、(字幕)

『お怪我はありませんか』

7、(字幕)

『でもお怪我がなくて何よりでした、兎に角別荘迄送りませう』

此のやうな美しい女に初めて接した啓藏は胸の高鳴りを禁じ得なかつた。啓藏は麗子を送つた。其の時木蔭から一人の男が薄氣味の悪い笑を漏しながら見送つてゐた。それは成富清吾だつた。

8、(字幕)

『その後の啓藏は日に一度必ず別荘を訪れる男になつた』

9、(字幕)

『もつと傍へゐらつしやいな』

麗子は盛に啓藏を誘惑した。

10、(字幕)

『八日目の朝のこと』

啓藏は吾家の縁側に腰をかけて物想にふけつてゐた。その時村の道を一臺の自動車が啓藏の家の方へ來た。

【第一巻終り】

第 二 卷

自動車の主は麗子だつた。啓藏は急いで飛んで行つた。許婚のお加代はそれを眺めて獨りで悲しんだ。

1、(字幕)

『私急に東京へ歸ることになりましたの』

2、(字幕)

『あなたも何とかして東京へ出ていらつしやいな私待つてゐますわ』

啓藏は突然の事にぼうとした。

3、(字幕)

『数日の後啓藏は遂に唯一人の親を捨て妹を捨てお加代を捨て、東京へ奔つた』

啓藏が家出したのを見すまして不良の清吾はそろ／＼とお加代に魔手を延ばし始めた。

4、(字幕)

『啓藏君が家出をしたといふのは本當かね』

5、(字幕)

『お加代さん——迎ひに行つて見たらどうだ、啓藏の行先は僕にちゃんと分つてゐる、一つ伴れて行つてあげやう』

6、(字幕)

『私啓藏さんを迎ひに行つてもよろしうございませうか』



悪魔の手

『でも清吾さんが私を伴れてつて下さると云ひますから』
父親の反對でお加代は當惑したが、たちまち彼女の顔には決心の色が浮んだ。そして清吾に伴はれて東京へ奔つた。

9、(字幕)

『東京』

東京へ着いたお加代は矢もたてもたまらなかつた。

10、(字幕)

『清吾さんあなたお疲れでせうけれども、どうかすぐに啓藏さんのところへ伴れてつて下さいましな』

清吾の態度が一變した。

11、(字幕)

『實を云ふと啓藏君が何處にゐるんだかそんな事は知らな

さ』

12、(字幕)

『僕はずつと以前からお加代さんの事を思ひつめてゐたんだ』

清吾はしなだれかゝつた。お加代は驚いて起ちあがつた。

13、(字幕)

『かうした出來事の半面に於て麗子を追つかけた啓藏はまことに哀れな戀の奴隷であつた』

啓藏は麗子の歡心を得る事に汲々としてゐた。或日の事彼は財布の底をはたいて指輪を買つた。

14、(字幕)

『何を買つて來たのさ』

啓藏の事に心を奪はれてゐるお加代は、親切ごかしの清吾の言葉に心を動かされたのである。けれど泰三は反對した。

7、(字幕)

『あんなろくでなしは迎ひに行かなくてもいい』

8、(字幕)

15、(字幕)

『あなたのお氣に入るかどうか兎に角一度見て下さい』

16、(字幕)

『僕はありつたけの金を投げ出して買つて来たんです』

麗子は彼の眞心の指輪を受けてやらうとせす。

17、(字幕)



眞心をこめて買つた指輪

『ありがたう明日は何を買つて来るの』

麗子は邪けんに指輪を投げ返して云つた。

18、(字幕)

『あんたは早く玄關へ行つて寝なさい』

——【第二巻終り】——

第三 卷

1、(字幕)

『彼の朝の日課』

麗子の靴を磨いてゐる啓藏、出て来た麗子は啓藏に靴をはかせながら云つた。

2、(字幕)

『私の足袋が盥に入つてゐるからよく洗つてお置き』

3、(字幕)

『その夜』

日頃の憤滿に堪へ兼ねた啓藏は麗子の樂屋へ訪れた。そこには清吾が麗子と親しげに話して居た。

4、(字幕)

『君のその無月給の玄關番は足袋の洗濯までやるのかね』

5、(字幕)

『氣の利かない女中よりはいいはよ』

6、(字幕)

『ところであんたの計畫は一體どうなつたのさ』

7、(字幕)

『もうすんでしまつたよ、うまく欺して東京まで引張り出したのさ』

8、(字幕)

『一緒にゐるの』

9、(字幕)

『もうどこかへ行つちやつた、何時まで一緒にゐられちやたまらねえやな』

10、(字幕)

『日本一の道化者がお別れにやつて来たよ』

樂屋の入口にたゝずんで二人の話をきいて居た啓藏は、もう堪へられなかつたのだ。啓藏は二人を酷い目にやつけた。

11、(字幕)

『これが道化者のお禮だ』

12、(字幕)

『都會——都會そこにはまた更に怖ろしい一面があつた』

夜の街を紳士と令嬢を乗せた一臺の自動車走つて来る。車上の主、その人は香川博士とその令嬢であつた。どうしたわけか自動車突然故障を起して停まつた。博士は修繕に手間がかかりさうなので令嬢を伴れて先に歩く事にした。

13、(字幕)

『ぼつ／＼先に歩いてゐるから、なほつたら追つかけて来てくれ』

博士親子が暗い所へさしかゝると突然不良少年の一團が襲ひがゝつた。博士は撲られ令嬢はさらはれやうとした。ちやうど其折通りかゝたのが啓藏であつた。啓藏はかくと見て不良少年の多勢を取つて投げた。そこへ明るい自動車ヘッドライトが輝いた。不

良少年共はたちまち逃げ散つた。博士は啓藏の手をとつて悦んだ。

14、(字幕)

『わし達親子は君に禮を云はなきやならない、兎に角わしの家まで一諸に行つてくれないか』

15、(字幕)

『君はわし達親娘の生命の恩人なんだ』

16、(字幕)

『いや決して私の力じゃありません、明く輝いた自動車の明りが惡魔共を追拂つたのです』

17、(字幕)

『明りが惡魔を追拂つた——君はなか／＼面白い男だ、わしはどうしても伴れて行くぞ』

博士は無理に啓藏を自動車に乗せた。

18、(字幕)

『この老紳士は日本に於ける電化研究の權威者香川博士であつた』

博士邸の應接室に通された啓藏、驚きの目を見張つて室内を見廻はす。

19、(字幕)

『その家庭の電化——啓藏は事ごとに驚きの目をみはつた』

まづ博士が煙草をつける時の煙草盆が電氣仕掛である。傍を見ると電氣のストーブがある。又電氣の湯沸があつてお湯が氣持ちよく沸いてゐる。博士の室内の照明スタンドランプ、ホルルのブラケット、半間接照明器具、シガーライター、ストーブ、電氣フトン、

足温器、電気扇、蒸温器。女中が臺所でパアコレーターでコーヒーを作り、トーストを作る。令嬢に依つてお茶とお菓子が運ばれる。啓藏は令嬢もお茶もお菓子もすべてが眼に入らないものゝ如く、室内の電気装置を見廻はしてゐる。

20、(字幕)

『啓藏君は大分電気に興味を感じたらしいな、一つわしの家
がどんな風に電氣を應用してゐるか見せてあげやう、』

博士は啓藏を伴れて邸内を隈なく見せる。先づ室内の照明——臺所の電氣装置——洗濯場——浴場——を充分に見せる。それから真空掃除器、洗濯場には女中が洗濯機械で仕事をしてゐる。絞り機を使用する。令嬢が臺所に案内する。レンジ、冷蔵庫、七輪、釜、水揚モーター、換氣ファンを紹介する。

電氣アイロン



電氣力……………二五〇ワット

三十分の電氣料……………約一錢五厘

22、(字幕)

電氣マドヒ拂し

電氣消費量……………四〇〇ワット
二十分の電氣料……………約一錢二厘

23、(字幕)

電氣飯焚釜



使用電力……一、四キロワット
一升の御飯が……約三分で焚ける
電気料……約四錢五厘

24、(字幕)

電気空気温潤器

電気力……一〇〇ワット

一時間の電気料……約五厘

25、(字幕)

電気按摩器

電気力……一〇ワット

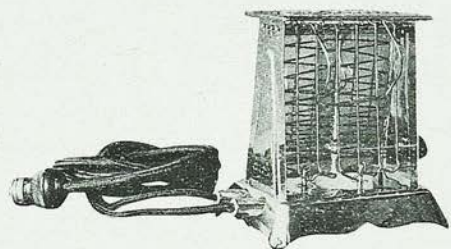
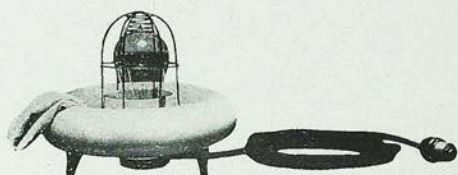
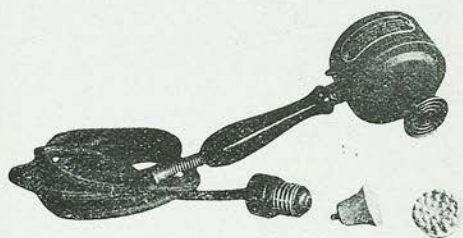
一時間の電気料……約一厘

26、(字幕)

電気パン焼

電気力……五〇〇ワット

三十分の電気料……約一錢五厘



第 四 卷

1、(字幕)

『その夜の奇縁に結ばれて啓藏は博士家の書生となつた彼は
是迄の悪夢を忘れてひたすらに電気の研究を續けた』

2、(字幕)

『そこに拾箇月あまりの歳月が流れた』



電化研究の權威者と其の弟子

3、(字幕)

『或る日の事』

啓藏は郷里の妹お鈴から来た手紙によつて、父の大病と例年の如く起る水騒動の氣配を知つた。

啓藏は博士に父親の病氣の事を話した。

4、(字幕)

『父がもう永い間患つてゐるのでございます』

5、(字幕)

『行つてお父様に孝養をつくして来るがいい、君の仕事はこれからまだ先が長いのだ』

啓藏は故郷に向つて出發した。

6、(字幕)

『故郷』

7、(字幕)

『その乗合馬車が彼の生れ故郷に着いた時、そこには呪はしい事件が持ち上つて居た』

水騒動が起つてゐた。

8、(字幕)

『みんなこれから喧嘩に行くんです』

啓藏が出迎の妹にたゞならぬ村の様子をきいた時、彼は自分の使命を直覺した。

9、(字幕)

『隣村の人達が堤を毀はしたんですつて』

村長をはじめ村の有志が先にたつて騒いでゐた。



水騒動の起りかけた故郷

10、(字幕)

『村の爲めぢや、村の衆の生命の爲めぢや、思ひきつてやつてくけろ』

啓藏は村の人達の集合してゐる所へ駆けつけた。

11、(字幕)

『どうかお待ち下さい』

啓藏はやうやく鎮守の森へ駆けつけて群衆を押し分けて前へ出た
12、(字幕)

『あれは泰三さんの倅ぢやないか、この騒動を待たしてどう
する積りなんぢや』

啓藏は力強い聲で云つた。

13、(字幕)



啓藏の前に出た群衆

『喧嘩をしなくとも水をとる方法があります』
14、(字幕)

『唯一つの貯水池を頼りにして喧嘩をする時代ぢやない、電
力を利用すれば川から水はいくらでも取れるんだ』

15、(字幕)

『わし等の田は川よりも高い所にあるのぢや』

16、(字幕)

『時代に眼醒める必要があります、文明を取り入れる事に依つ
て村は立派に救はれるんです』

—【第四巻終り】—

第五卷

1、(字幕)

『その翌日啓藏は病父を残して再び東京に出たそれは村の代
表者を香川博士のところへ同行する爲であつた』

啓藏一行は停車場から自動車に乗つた。

2、(字幕)

『恰度食事の時間です、何か簡単に食べて行きませう』

啓藏は二人を案内して或るカフェーに入つた。そこにはお加代が
女給になつてゐた。その店へは清吾をはじめ仲間の不良青年が來
てゐた。啓藏はお加代を見つけて側へ往く。お加代は驚いて次の
室へ逃げ込む。扉を開けやうとするが、それが開かない。

3、(字幕)

『お加代さん』

啓藏は其の扉を開けやうとするがお加代がしつかり押へて開けさ

せない。

4、(字幕)

『傍へ寄らないで下さい、私を見ないで下さい、お願ですから』
啓藏を見つけた清吾は仲間に耳打ちして啓藏に襲ひかゝつた。

5、(字幕)

『俺はどうかして貴様に逢ひたいと思つてゐたのだ』

同行の村の人がはら／＼としてゐるうちに、啓藏は清吾達のために打ち倒された。それと見てお加代はナイフを手にして室を出て清吾を刺した。清吾は胸から血を流して死んだ。お加代は駆けつけた警官のために其場から警察に引かれた。啓藏の悲しみ。

6、(字幕)

『啓藏の使命——それは悲しき涙の裡に徐々と果されて行つた。そして村には再び輝かしい平和の日が來た』

啓藏は香川博士の援助の下に村を電化した。

7、(字幕)

『電力器具を使用する事に依つて人力は省かれ經濟的に生産能率を高める事が出來たのであつた』

8、(字幕)

電氣孵卵器

電力……………一八〇ワット 入卵個數……………五〇〇個

孵化能率……………七〇パーセント

9、(字幕)

電氣育雛器

電力……………一八〇ワット 容量……………五〇〇羽

10、(字幕)

電力藥切機

馬力……………一馬力 價格……………一五〇圓

能率……………一時間一〇〇貫

11、(字幕)

電力製繩機

馬力……………五分ノ一馬力 價格……………四〇圓

能率……………一時間二五〇〇尺

12、(字幕)

電力剝剝機

馬力……………一馬力半 價格……………一五〇圓

能率……………一時間六石

13、(字幕)

電力自働脱穀機

馬力……………二馬力 價格……………二八〇圓

能率……………一時間二畝歩

14、(字幕)

電力脱穀機

馬力……………二分ノ一馬力 價格……………八八圓

能率……………一時間五畝歩

15、(字幕)

電力豆粕粉碎機

馬力……………一馬力半 價格……………一參〇圓

能率……………一時間三十五枚

16、(字幕)

『併しながら我が橋本啓藏の若き胸には悲痛なる傷手が残つた』

彼は日に一度必ず一本の手紙を書いて、獄中のお加代に送つた。

【終り】

編輯後記に代へて

暑氣殊の外烈しき折柄、讀者諸賢にはますます御壯健のこころ存じます。

一日の仕事を終つて家の前庭に水を撒いて、翌朝咲かう云ふ朝顔の蕾のついた鉢植を見出すなども、暑さの折に與へられた慰めの一つであります。

『心頭を滅却すれば火も亦涼し』と云つた人もあつたやうですが、それは修養を積んだ達人のことで、凡人には心頭までが暑くなるのは困つたものです。

暑さのために睡眠が不足勝ちでありますから、従つて疲労も多く感ずる譯であり、無理をなすべくなさぬことが最も必要なこころ存じます。

夏に燈の對照は稍暑苦しくも感ぜられます。殊に郊外などで明け放した座敷に夏虫が澤山飛んで来るのは困つたものであります。

夏になると冷しき光のこころを思ひ起すのは記者ばかりではありますまい。はやく熱を伴はない光を日常の家庭で使いたいものであります。

夏の燈のうちで最も我々を救ふものは、あの緑日などの夜店の燈であります。青い植木や美しく咲いた草花に、水をかけたその滴りに映る灯の光りは誠に涼しい極みであります。一鉢の草花でも買つて戻る心持は何んとも言へない愉快さがあります。

夏の燈で涼しく感ずるものは水に映つた灯の影であります。都會に近い處では、川でも、濠でも、池でも、水がきれいなこころは申されないものでありますが、しかし、夜と云ふ静かな女神が訪れて参ります、凡ての醜惡を美化して終ひます。そして、濁つた水に映つた灯でも誠に心地よいものの一つとなるのであります。

前號は家庭電氣號として特別號を出しましたが、いろいろの手違ひで非常に遅延いたしました、申譯もない次第と恐縮致してをります。しかし、骨折つただけのこころは幾分はあつたらうと稍自信は持つてをります。どうか忌憚なき御批評を承りたいと思ひます。

映畫劇『光を望みて』は家庭電氣號に入れる積りでありましたが、紙數の都合で本號に入れることになりました。農村電化の方がはつきり出てをるやうに見えますが、しかし家庭電化も相當に取入れてあります。此の映畫劇の原作者は弊社の販賣部奉仕係の野村務氏であります。此の映畫劇は本年の春にフィルムになりましたから何時でも御目通りが出来ます。

本號から目下米國視察中の當社東京出張所長橋弘作氏の紀行を掲載いたしますことになりました。多忙中の小閑を得て書れましたものでせうが、讀者を裨益するこころは少なからうと記者も喜んでゐる次第であります。

遙かに橋氏の御骨折を謝すると共に健康を祈りたく存じます。

橋氏の紀行はマツダ新報にのみ表れる特報でありますから、其の御積りで御愛讀の程を願ひます。猶ほ紀行は陸續として編輯室に届いてをりますから、毎號誌上を飾るこころ存じます。最近のアメリカを知る上に於て、又アメリカの商店のこころを學ぶ上に於て、他に見られぬ好資料と存じます。

マツダ照明學校も大體完成に近づきました。此の秋あたりから講義が始められませう。設備は殆んど凡て出来上つてをりますから、當地御通過の際は是非御立寄御一覽の程を御願ひいたします。

昭和二年七月二十五日印刷
昭和二年七月二十八日發行

編輯兼 米 山 清 三
發行人

東京市京橋區銀座三丁目十七番地
印刷人 近 藤 万 藏

東京市京橋區銀座三丁目十七番地
印刷所 三 間 印刷所

電話京橋 (56番) 五五七七
四番 五五三三
八番 五五三八

神奈川縣川崎市
發行所

東京電氣株式會社